

令和5年度大学教育再生戦略推進費
「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」の申請について

| | |
|------------------|--|
| 代表校名 (連携大学名) | 九州大学（福岡大学、久留米大学、産業医科大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）計11大学 |
| 事業名 (全角20字以内) | 次世代の九州がんプロ養成プラン |

1. 全体計画

(1) 事業の構想

①事業の概要

〈事業の概要〉(400字以内厳守)

九州の11医療系大学大学院が、過去16年にわたる密接な連携を基盤とする拠点を形成し、第4期がん対策推進基本計画において求められる人材の育成の強化を実現する。各大学は当該地域のがん医療のニーズも考慮し、大学の規模や特徴に基づいた大学院プログラムを設置して、九州全体で各テーマの人材育成を目指す。テーマに関する専門講義に加え、大学病院の放射線治療、病理診断、がん疼痛緩和、小児がん医療、腫瘍内科等の各部門との強力な連携に基づく実地教育を行う。拠点内の合同講義・研修の実施とともに、e-ラーニング、遠隔通信を利用した広域にわたる大学間連携を実現し、離島僻地医療や多職種連携を含む教育体制を構築する。特に新規治療法開発やがん予防等の研究を推進する人材育成には、拠点内大学間のみならず、拠点間、国外の医療・研究教育機関と共同で取組み、我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

②テーマごとの課題と対応策

テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

課題・対応策

病理診断医や放射線治療医は都市圏に偏在しておりこれが課題と考えられる。九州地方は全国の離島・僻地の約半数を占めており、これらの専門家の不足は顕著であり、その結果がん診療への不利益がもたらされている。またこれまで痛みの治療・ケアや腫瘍循環器学などのがん関連学際領域の教育は必ずしも十分でなく、これらを担える人材も不足しており、現在の医療現場の課題への対応が困難である。そこで本プランではこれらの課題に対応する以下のプログラムを設ける。

病理診断については、九州大学にがんの病理診断医養成コースを、同じく九州大学に細胞検査士養成コースを設ける。放射線治療医の不足に対しては九州大学と久留米大学に放射線治療医を養成するコースを、宮崎大学には放射線治療についてのインテンシブコースを設ける。

痛みの治療・ケアについては、琉球大学に医師を対象としたコース、看護師を対象としたコースを設定する。また九州大学において創薬を目指す薬剤師養成コースではがん疼痛緩和について研究を行うことを予定している。

また長崎大学では離島にある中核病院においてがん医療実習を行い、将来的に地域に定着する医療者の養成を目指す。同様に離島を多数有する地域にある琉球大学も長崎大学と連携し、離島におけるがん医療人材の育成を行いがん医療の偏在の解消を目指す。

各大学で養成コースの共通学習項目として、腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等を含む学際領域を取り入れることで、九州全体で課題を解決する人材の育成を推進する。

テーマに関する強み

九州の各医療圏における専門人材不足を解決するために、当該地域の医療者を対象として九州の教育施設で養成することは、課題解決には極めて効率的であり、本プランで実施する意義が高い。

特に一般診療の地域偏在を解消するための枠組みを活用し、がん医療の偏在の解決を目指す長崎大学と、同様に離島を多数有する医療圏にある琉球大学が連携することの意義は大きい。この連携より得られる知見は、他の医療圏にも広く活用されることが期待される。

九州大学薬学府は疼痛について先進的研究を行っており、薬学コースにおいて疼痛に関する創薬研究を行うことで、がん疼痛の治療に貢献できる。

九州大学では、がん薬物療法(腫瘍内科学)と循環器病学の両方の専門医資格を有する教員が腫瘍循環器学を指導している。またがん免疫療法における有害事象対策のための腎臓内科、膠原病内科、神経内科、糖尿病内分泌内科等とのチーム医療体制を全国に先駆けて構築しており、高度な学際領域の教育、研究に対応できる人材の育成、そしてその参加大学間での共有が可能である。

テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成

課題・対応策

がん治療の進歩とともにがん患者の生命予後は向上した。一方で、がん経験者（サバイバー）では疾患自体と治療による身体的・精神的・社会的な負荷があり、小児がんを含むがんサバイバーには専門人材による長期にわたるケアが必要である。しかし九州においてこれらのケアを担う専門人材は未だ充足していない。また近年、がんゲノム検査が実臨床で拡大したことにより、がんプレディスポジションを有する患者や血縁未発症者が顕在化し、保有する遺伝子型により異なる様々ながんリスクに対してスクリーニングを担う人材も更に必要となってきた。そこで本プランではこれらの課題に対応する以下のプログラムを設ける。

がんサバイバーの苦痛に対応できるがん専門医療人を養成するコースを福岡大学に、多職種を対象としたインテンシブコースを福岡大学と大分大学に設ける。がん治療中の患者、およびがんサバイバーの就労問題は社会的な大きな課題であり、それに対して産業医科大学においてがん治療と就労の両立を支援する医師を養成するコースを設ける。

遺伝性腫瘍、二次がんを含むがん予防・サーベイランス・遺伝カウンセリングを担う人材を養成するコースを長崎大学と鹿児島大学に設ける。上述のがんサバイバーへの負荷は、特に小児がんにおいて顕著であり、成長への影響を評価し、二次がんへの対応を行うと共に、豊富な医療ビッグデータを利用したがん予防研究を包括的に実施できる専門人材の育成が急務である。そのため、主に小児がんを対象としたがん予防とプレジジョン医療を担う人材を養成するコースを九州大学に設ける。

テーマに関する強み

産業医科大学には、医療機関、職場と連携して、患者の治療継続と就労の両立を支援する支援機関として両立支援科が設置されており、そのノウハウが蓄積されている。同大学のプログラムでは両立支援科における実地指導も含まれ、がん患者、がんサバイバーの就労問題の解決に寄与する人材の育成が期待される。

九州大学病院は小児がん拠点病院に指定されており、九州各地からの小児がん患者が多く集まる。成人よりも遺伝的要因の強い小児がん症例が多く集積されるため、がんサバイバーおよび血縁未発症者を対象としたがん予防についての専門知識を持つ人材育成に有利である。また同病院はがんゲノム医療中核拠点病院として九州の各大学とのがんゲノム医療に関する教育、診療、研究の連携関係も構築しており、マルチオミクスデータと臨床情報を紐付けた医療ビッグデータに基づいた、遺伝性腫瘍の予防に資する人材の教育も効率よく実施できる。

上記の教育内容はコース設置校に限定されるものではなく、本プラン参加校間の連携体制を利用した人材育成が可能である。

テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

課題・対応策

近年、がん治療のバイオマーカーが多数見出され、これを標的とした治療が次々と臨床応用された結果、がん治療は著しく複雑化している。がんの個別化医療の推進には、急速に集積する国内外の研究成果を理解して診療に生かすだけでなく、自ら新規治療開発に寄与する人材の育成がさらに求められている。また、免疫チェックポイント阻害療法やCAR-T療法をはじめとしたがん免疫療法は、多くのがん種で臨床効果を示し標準療法に組み込まれている。これを適切に実施するには、多彩な免疫関連有害事象に対応できる人材育成が必要である。そこで本プランではこれらの課題に対応する以下のプログラムを設ける。

九州大学、産業医科大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、鹿児島大学の各校において、医師を対象として個別化医療・新規治療開発のための個別化医療を推進するためのコースを設置し、臨床情報・ゲノムデータ解析や、バイオマーカー・新規治療標的の探索を実施する人材を養成する。これらのコースではがん免疫療法を体系的に習得できる講義、演習を組み込む。薬剤師を対象としたがん創薬研究薬学コースを九州大学に設置し、新規治療標的の選定とそれに対する薬剤について腫瘍学的・薬学的に評価できる薬学研究者・薬剤師の養成を目指す。さらには、薬物療法に加えて放射線治療においても新たな治療法の開発を目指し、医学物理士等を対象としたデータサイエンティストコースを九州大学に設ける。

テーマに関する強み

九州大学に設置されたプレジジョン医療学講座は、ゲノム情報に基づいたがん予防・治療法の開発を専門としており、同講座と拠点内とで連携を行うことで新たな個別化医療の実現を目指す。

鹿児島大学では工学部、経済学部と協力し、人工知能や医療経済など多角的ながん医療に対応できる人材の養成を目指す独創的な取組を計画している。

さらに幅広い研究開発人材の育成のために拠点外との連携は不可欠である、国内においては北海道・東北・北陸のがんプロ養成拠点との拠点間合同研修事業を行う予定であり、互いの成果について情報交換や議論をする機会を作る。国外においては、がん医療の集約化の進む韓国や、ストックホルムの九州大学海外事務所などを介した欧州医療・研究施設などとの交流が可能であり、これらを通して人材育成のみならず共同研究や技術交流を行える素地がある。

(2) 達成目標・評価指標

| |
|--|
| アウトプット |
| <ul style="list-style-type: none">・教育プログラム・コースの立ち上げ時期：令和5年7月以降順次（予定）。・教育プログラム・コースの実施数：全36コース（うちインテンシブ11コース）。・教育プログラム・コースの履修者数・修了者数：900人（予定）。コース別の内訳は様式2を参照。・本事業に係るシンポジウムやセミナー等の実施数：<ul style="list-style-type: none">[令和5年度]シンポジウム1回50人、セミナー22回960人、市民公開講座1回100人、11大学[令和6年度]シンポジウム1回50人、セミナー28回1,190人、市民公開講座1回100人、11大学[令和7年度]シンポジウム3回120人、セミナー21回1,000人、市民公開講座1回100人、11大学[令和8年度]シンポジウム1回50人、セミナー22回1,010人、市民公開講座1回100人、11大学[令和9年度]シンポジウム2回70人、セミナー21回1,000人、市民公開講座1回100人、11大学[令和10年度]シンポジウム2回70人、セミナー21回1,000人、市民公開講座1回100人、11大学・海外機関との連携：補助期間を通じ、毎年2回以上、海外機関との交流事業（学生・教員の派遣/受入等）を継続的に実施する。事業成果はホームページやSNS等を通じ、本プラン外にも広く分かりやすい形で情報発信・普及する。・拠点間合同研修：年3回（令和5年以降 3拠点、北海道拠点、東北拠点、北陸拠点と計画） |
| アウトカム |
| <ul style="list-style-type: none">・専門医等資格取得数（がん薬物療法（腫瘍内科）専門医、外科専門医、がん治療認定医、病理専門医、放射線治療専門医、小児血液・がん専門医など）・がんゲノム検査数・遺伝カウンセリング数・病理専門医、放射線治療専門医のがん拠点病院における在籍数・がんプロ学生が筆頭著者である学術論文数（英文） |

(3) 事業の運営体制

①学内の運営体制

本プラン参加大学の医学研究科等の長が各大学における事業責任者となり、九州大学大学院医学研究院長がこれを統括する。また各大学には実務担当のコーディネーター教員を1名置き、九州大学に幹事コーディネーター教員（連携社会医学分野教授）を置く。幹事コーディネーター教員が参加大学の実務を統括する。各大学コーディネーター教員等により「事業運営推進協議会」（仮称）を組織し事業運営の意思統一、円滑な運営を実現させる。加えて九州大学内に本プラン事務局を設置し、各大学が実施する事業の集約・情報発信、eラーニング教育支援、コース実績等収集を一元管理することで、効率的かつ効果的な実務運営を行う。

②学外との連携体制

本プラン参加は11大学と広範にわたるため、オンライン会議や合同講習会を利用して限られた教育リソースを効率的に共有する。また本プラン参加大学の多くは自大学に「がん診療連携拠点病院」を有しており、地域がん診療の連携協力体制構築をスムーズに進めることが可能である。さらに各種団体・企業が実施する様々ながん医療に関わる講習会を活用し、履修生の知識、技術の向上に役立てる。また、国内拠点間共同事業を北海道拠点、東北拠点、北陸拠点と実施し、がん医療人材の偏在の解決や新規治療の開発について、計画や成果について報告及び議論を行うことで、事業のブラッシュアップを図る。国外においては、がん医療の集約化の進む韓国で中心的な位置付けであるアサンメディカルセンターと連携し、新規治療の開発について共同研究や技術交流を行う。また、ストックホルムの九州大学海外事務所などを介し、ヨーロッパ内の医療・研究施設などの教育プログラムとの交流を図る。

③評価体制

九州大学大学院医学研究院長が議長となり、各大学コーディネーター教員や連携医療機関代表者等を招集し、「事業運営推進協議会」（仮称）を1年目に設置し、2年目以降は原則として年2回開催する。本協議会で事業計画の策定、進捗状況の共有、内部評価を行う。併せて外部有識者を評価委員とした「外部評価委員会」を設置し、補助期間を通じて継続的な第三者評価を実施することで客観的な評価を踏まえた事業改善が可能となり、PDCAサイクルを確実に回せる体制を構築する。

(4) 成果の普及や事業の継続

①成果の普及

本プラン履修生の修了後所属先でのがん診療、研究における活動を調査し、その情報を連携大学間で共有することで事業成果を広く活用する。事業で得た成果は学術誌等に論文として掲載し、本事業から得た知見を広く周知する。論文化に加えて、本プランが主催・共催する講演会、市民公開講座を通じて、本プランの事業成果を広く社会に発信する。特にがん予防医療・サバイバーケアは、長期に地域差なく提供されるべきものであり、九州各地域の教育の中心である大学が率先して行うことが肝要である。これらの教育内容はホームページやSNS、市民公開講座を通じて広く還元される。

②事業の継続

事業5年目、6年目の補助金上限減額時においても、既存の人的資源を用いて、事業規模を縮小せず人材養成を継続する。養成に必要な機材・物品は事業期間前半に購入し、補助金上限減額時には必要な機材・物品は揃っていると想定している。補助期間終了後も同様、本プランで新設したコースを維持し事業を継続する予定としている。また補助期間中より「事業運営推進協議会」（仮称）において、事業継続のための具体的な検討を行う。また補助期間終了後も補助期間と同様に各大学での大学院教育（講義、実習等）を継続すると共に、オンラインなどを活用し参加大学合同研修会、拠点間共同事業、市民公開講座などを継続開催する。

③第3期がんプロの継続状況

※代表校（申請大学）における第3期がんプロで開設した大学院正規課程コースを全て記載し、令和4年度の学生募集の有無を○×で選択してください（第3期がんプロで選定されていない大学は記入不要）。

| 番号 | 教育プログラム・コース名 | 令和4年度の学生募集の有無 |
|----|-------------------|---------------|
| 1 | ゲノム基盤先端臨床腫瘍学コース | ○ |
| 2 | 希少がん・放射線治療学コース | ○ |
| 3 | 小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース | ○ |
| 4 | 先端医用量子線技術科学コース | ○ |
| 5 | がん専門細胞検査士コース修士課程 | ○ |
| 6 | がん研究薬剤師コース博士課程 | ○ |

2. 年度別の計画

(1) 年度別の計画

| | |
|------------------------|---|
| R5年度 | <ul style="list-style-type: none"> ①7月 本プラン事務局、公式ホームページを開設・公開 ②8月 「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ③10月～2月 各大学においてセミナー、講習会等を実施 ④11月 国内外医療機関等を調査し、連携体制構築のための協定締結に向けて協議 ⑤2月 拠点内連携強化のための連携大学共同による研修会を開催 |
| R6年度 | <ul style="list-style-type: none"> ①4月 新しい教育コースを開始（全○○コース）。 ②4月～3月 他がんプロ拠点との合同事業、各大学においてセミナー、講習会等を開催 ③6月、11月「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ④1月 国内外から講師を招聘し、学術シンポジウムを開催 ⑤2月 事業の成果普及のための市民公開講座を開催 |
| R7年度 | <ul style="list-style-type: none"> ①4月～3月 他がんプロ拠点との合同事業、各大学においてセミナー、講習会等を開催 ②6月、11月 事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ③1月 成果報告のための連携大学共同による研修会を開催 ④2月 事業の成果普及のための市民公開講座を開催 |
| R8年度 | <ul style="list-style-type: none"> ①4月～3月 他がんプロ拠点との合同事業、各大学においてセミナー、講習会等を開催 ②6月、11月「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ③1月 事業の進捗状況評価のため「中間外部評価シンポジウム」を開催 ④2月 事業の成果普及のための市民公開講座を開催 |
| R9年度 | <ul style="list-style-type: none"> ①4月～3月 他がんプロ拠点との合同事業、各大学においてセミナー、講習会等を開催 ②6月、11月「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ③1月 成果報告のための連携大学共同による研修会を開催 ④2月 事業の成果普及のための市民公開講座を開催 |
| R10年度 | <ul style="list-style-type: none"> ①4月～3月 他がんプロ拠点との合同事業、各大学においてセミナー、講習会等を開催 ②6月、11月「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ③11月 事業の最終評価のため「最終外部評価シンポジウム」を開催 ④2月 本プランの実績・成果を報告書配布等を通じて広く社会へ公開・還元。 |
| R11年度 [補助期間 終了後] | <ul style="list-style-type: none"> ①4月 新しい教育コースの講義、実習を継続して実施 ②6月、11月「事業運営推進協議会」（仮称）を開催 ③11月 修了生等による「成果発表会」開催による本プランの成果の発信 ④11月 「事業運営推進協議会」（仮称）を開催し事業の継続について評価 |

総表

1. 参加大学の状況

拠点病院の指定やがんに特化した講座設置等に該当する場合は○を、補助事業期間中に指定取得や設置等を計画している場合は□を選択してください。(既に講座があり、追加を計画している場合には■を選択してください。)

| 大学名 | がん診療連携拠点病院 | | | | | 地域がん診療病院 | 小児がん拠点病院 | がんゲノム医療病院 | | | がんの特化した講座 | | | | バイオバンク | 大学ごとのR5補助金配分額(千円) |
|--------|------------|---------|----|---------|------|----------|----------|-----------|----|----|-----------|-------|------|-----|--------|-------------------|
| | 都道府県 | 地域(高度型) | 地域 | 地域(特例型) | 特定領域 | | | 中核拠点 | 拠点 | 連携 | 薬物療法 | 放射線治療 | 緩和医療 | その他 | | |
| 九州大学 | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | 24,827 |
| 福岡大学 | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | | | | 3,923 |
| 久留米大学 | | | ○ | | | | | | ○ | | | | | | | 4,087 |
| 産業医科大学 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | 3,927 |
| 佐賀大学 | ○ | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | 4,087 |
| 長崎大学 | ○ | | | | | | | | | ○ | | ○ | | | | 7,080 |
| 熊本大学 | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | ○ | ○ | 6,547 |
| 大分大学 | ○ | | | | | | □ | | | ○ | | | | | | 10,355 |
| 宮崎大学 | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | | | 3,927 |
| 鹿児島大学 | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | | ○ | 4,926 |
| 琉球大学 | ○ | | | | | | | | | ○ | | | | | ○ | 3,784 |

| | |
|--------------------|--|
| がんの特化した講座の名称 | (九州大学)連携社会医学分野、臨床放射線科学分野 (福岡大学)腫瘍・血液・感染症内科学 (佐賀大学)内科学講座(血液・腫瘍内科) (長崎大学)展開医療科学講座(臨床腫瘍学分野) (熊本大学)消化器癌先端治療開発学寄附講座 (鹿児島大学)臨床腫瘍学講座 |
| バイオバンクの保存試料数(がん関係) | (九州大学)約28,688人分、(鹿児島大学)約600人分 (琉球大学)約700人分 |

2. 教育プログラム・コース一覧

(1) 大学院正規課程コース

| 大学名 | テーマ | 教育プログラム・コース名 | 養成目標人数合計 | 養成する職種に○、がん専門資格と連動している場合◎を選択 | | | | | | |
|--------|------|------------------------------|----------|------------------------------|------|-----|-----|---------|-------|--|
| | | | | 医師 | 歯科医師 | 薬剤師 | 看護師 | その他の医療職 | 医療職以外 | |
| 九州大学 | テーマ① | 個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース | 65 | ◎ | | | | | | |
| 九州大学 | テーマ① | 放射線治療学コース | 3 | ◎ | | | | | | |
| 九州大学 | テーマ② | がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース | 5 | ◎ | | | | | | |
| 九州大学 | テーマ① | 次世代の病理学コース | 3 | ◎ | | | | | | |
| 九州大学 | テーマ③ | 医用量子線データサイエンティストコース | 40 | | | | | ○ | | |
| 九州大学 | テーマ① | がんゲノム専門細胞検査士コース 修士課程 | 10 | | | | | ○ | | |
| 九州大学 | テーマ③ | がん創薬研究薬学コース博士課程 | 10 | | | ◎ | | | | |
| 福岡大学 | テーマ① | がんサバイバーの苦痛に対応できるがん専門医療人育成コース | 5 | ◎ | | | | | | |
| 久留米大学 | テーマ① | 放射線療法専門医養成コース | 10 | ○ | | | | | | |
| 久留米大学 | テーマ① | 専門職養成コース がん看護分野 CNS養成 | 10 | | | | | ○ | | |
| 産業医科大学 | テーマ① | がん治療と就労の両立支援医師養成コース | 5 | ◎ | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|--------|------|--|-----|---|---|---|---|---|--|
| 産業医科大学 | テーマ① | がんゲノム医療重点コース | 5 | ◎ | | | | | |
| 佐賀大学 | テーマ① | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | 6 | ◎ | | | | | |
| 長崎大学 | テーマ① | 多面的がん診療専門医師・歯科医師養成コース | 15 | ◎ | ◎ | | | | |
| 長崎大学 | テーマ② | 遺伝看護・遺伝カウンセリングコース | 10 | | | | ◎ | | |
| 長崎大学 | テーマ③ | がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース | 10 | ◎ | ◎ | | | | |
| 熊本大学 | テーマ① | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース | 24 | ◎ | | | | | |
| 大分大学 | テーマ③ | 包括的がん治療専門医療人養成コース | 30 | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| 大分大学 | テーマ① | 地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース | 5 | | | | ◎ | | |
| 宮崎大学 | テーマ① | 包括的がん専門医療人養成コース | 12 | ◎ | | ◎ | | | |
| 宮崎大学 | テーマ① | がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース | 6 | | | | ◎ | | |
| 鹿児島大学 | テーマ① | 先端がん診断・治療コース | 11 | ◎ | | ○ | | | |
| 琉球大学 | テーマ① | 痛みの治療・ケア、がん学際領域等を担う薬物療法専門医コース | 5 | ◎ | | | | | |
| 琉球大学 | テーマ① | 痛みの治療・ケア、がん関連学際領域等を担う地域実践型がん看護専門看護師コース | 5 | | | | ◎ | | |
| 合計 | | | 310 | | | | | | |

(2) インテンシブコース ※コースワークで複数の科目等を履修するものとし、1日～数日間の講習会は除く。

| 大学名 | テーマ | 教育プログラム・コース名 | 養成目標人数合計 | 医師 | 歯科医師 | 薬剤師 | 看護師 | その他の医療職 | 医療職以外 |
|--------|------|--|----------|----|------|-----|-----|---------|-------|
| 九州がんプロ | テーマ① | 次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース | 200 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 福岡大学 | テーマ① | 多職種連携がん専門医療人育成コース | 170 | ◎ | | ◎ | ◎ | ○ | |
| 久留米大学 | テーマ① | 大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」(インテンシブコース) | 10 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 産業医科大学 | テーマ① | がん治療と就労の両立支援医師養成コース(インテンシブコース) | 5 | ○ | | | | | |
| 産業医科大学 | テーマ① | がんゲノム医療重点コース(インテンシブコース) | 5 | ○ | | | | | |
| 熊本大学 | テーマ① | がん患者個別のライフステージ・QOLに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース(インテンシブコース) | 8 | | | ◎ | | | |
| 大分大学 | テーマ② | がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース | 60 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 宮崎大学 | テーマ① | がん専門医療人養成コース | 12 | ○ | | ○ | ○ | | |
| 宮崎大学 | テーマ① | 放射線治療専門医育成コース | 8 | ◎ | | | | | |
| 鹿児島大学 | テーマ① | 遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース | 24 | ○ | | ○ | ○ | | |
| 鹿児島大学 | テーマ① | がん専門薬剤師養成コース | 60 | | | ◎ | | | |
| 琉球大学 | テーマ① | 痛みの治療・ケアを担う緩和ケアエキスパートナース養成コース | 30 | | | | ◎ | | |
| 合計 | | | 592 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 九州大学大学院医学系学府医学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース（正規課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がんの個別化医療を実現するために、急速に集積する国内外の研究成果を理解して診療に生かすだけでなく、自ら新規治療開発に寄与する人材が求められている。また関連する学際領域について十分な理解を持って、適切ながん医療を提供できることは必須である。本コースでは個別化医療・新規治療開発のために、臨床情報・ゲノムデータ解析や、バイオマーカー・新規治療標的の探索、がんの学際領域への十分な理解を持って高いレベルのがん医療を実施できる臨床腫瘍医を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目22単位以上、選択科目12単位以上、合計34単位以上の習得および臨床研究の経験 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 低年次共通科目（1単位以上）、がん専門医師養成共通教育科目（次世代の臨床腫瘍学総論、次世代のがん個別化医療、各種がん治療アップデートなど）（3単位以上）、実習科目臨床腫瘍学実習（12単位）、博士論文演習科目（6単位）など計22単位以上 <選択科目> 専攻コア統合科目 がん専門医育成コース入門(1)～(4)（4単位）、専攻コア選択科目(8単位以上) | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 日本専門医機構 腫瘍内科専門医（旧日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医）、外科専門医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医の研修施設として認定されている。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | がんプロ共通科目として、がん疼痛管理、がん学際領域について、選択科目として様々ながんの治療を学び、特に主治医として治療にあたる際に必要な治療関連毒性についても体系的に学習する。また拠点内、他がんプロ拠点、海外の医療・研究施設と協働し、新規個別化医療に向けた基礎研究から臨床研究を行う。 | | | | | | |
| 指導体制 | 代表校の九州大学に設置されたプレジジョン医療学講座は、ゲノム情報に基づいたがん予防・治療法の開発を専門としており、同講座と拠点内とで連携を行うことで新たな個別化医療の実現を目指す。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | がん診療連携拠点病院においてがんの標準治療を実践できるとともに、個別化医療を目指したトランスレーショナル研究や治験・臨床試験を立案・実践できる医師として活躍できる。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 65 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 福岡県および隣県の35（福岡県20）の地域がん診療連携拠点病院に腫瘍内科専門医を4人、がん治療認定医を60人ずつ配置することを目標にするとがん薬物療法専門医123人（福岡県81人）外科専門医1953人（福岡県1224人）のため今後6年間で腫瘍内科専門医を5人、外科専門医を50人養成する。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度13人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を13人と設定した。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 九州大学大学院医学系学府医学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 放射線治療学コース（正規課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 全国の離島・僻地の約半数を有する九州では、地域がん診療拠点病院であっても放射線治療医は不足している。放射線治療はがんの局所治療ばかりでなく、がん疼痛緩和にも必要不可欠である。所属施設に備わる設備に応じて放射線治療の適応判断、治療計画、実際の放射線照射を完遂でき、粒子線治療など高度な治療についての十分な知識を持ち、さらに独創的な研究活動も行える放射線治療医を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目22単位以上、選択科目12単位以上、合計34単位以上の習得および臨床研究の経験 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 低年次共通科目（1単位以上）、がん専門医師養成共通教育科目（次世代の臨床腫瘍学総論、次世代の放射線治療学、各種がん治療アップデートなど）（3単位以上）、実習科目臨床腫瘍学実習（12単位）、博士論文演習科目（6単位）など計22単位以上 <選択科目> 専攻コア統合科目 がん専門医育成コース入門(1)～(4)（4単位）、専攻コア選択科目(8単位以上) | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 日本専門医機構 放射線治療専門医、日本核医学会 核医学専門医の研修施設として認定されている。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 医療施設毎に使用できる放射線照射装置、治療計画装置、核医学治療は様々である。放射線治療を熟知し、最大限に効果的な放射線治療の計画と実行が可能で、必要に応じて他の治療施設での治療を考慮できる放射線治療医を養成する。また、先端放射線治療の分野においても研究を行い、国際学会等を通じて社会に発信していく。 | | | | | | |
| 指導体制 | 九州の各医療圏における専門人材不足を解決するために、当該地域の医療者を対象として九州の教育施設で養成することは、課題解決には極めて効率的であり、講義、演習、実習、研究は本プラン所属の教員および関係講座所属の教員の協力体制にて実施する。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 九州の各医療圏のがん診療連携拠点病院において放射線治療を実践できるとともに、治験・臨床試験を立案・実践できる医師として活躍できる。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 3 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 福岡県および隣県の35（福岡県20）の地域がん診療連携拠点病院に放射線治療専門医を3人ずつ配置することを目標にする。現在の当該地域の放射線治療専門医87人（福岡県51人）のため今後6年間で放射線治療専門医を3人養成する。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から隔年1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を3人と設定した。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 九州大学大学院医学系学府医学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース（正規課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がん経験者、特に小児がんでは、疾患自体と治療による身体的・精神的・社会的な負荷があり、これに対応する専門人材が必要である。また二次がんや遺伝性腫瘍の頻度も高いため、がん経験者と血縁者のがん発症予防を担うことも望まれる。さらに全ゲノム検査を含むゲノム検査情報に基づき、成人を含むがんプレジジョンを有する個人に対するスクリーニング、主に小児の非腫瘍性の遺伝性疾患への理解を有する人材が望ましい。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目22単位以上、選択科目12単位以上、合計34単位以上の習得および臨床研究の経験、試験に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 低年次共通科目（1単位以上）、臨床研究専門教育科目（1単位以上）がん専門医師養成共通教育科目（次世代の臨床腫瘍学総論、次世代のがん予防医療など）（2単位以上）、実習科目臨床腫瘍学実習（12単位）、博士論文演習科目（6単位）など計22単位以上 <選択科目> 専攻コア統合科目 がん専門医育成コース入門(1)～(4)（4単位）、専攻コア選択科目(8単位以上) | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 日本小児血液・がん学会 小児血液・がん専門医、日本小児外科学会 小児外科専門医、臨床遺伝専門医制度委員会 臨床遺伝専門医の研修施設として認定されている。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 九州大学病院は九州で唯一の小児がん拠点病院であり、遺伝的要因の強い小児がん症例が多く集積されるため、がん経験者および血縁者を対象としたがん予防についての専門知識を得る機会が多い。また同院はがんゲノム医療中核拠点病院として九州の各大学との連携関係も構築しており、ゲノム医療に関連する遺伝性腫瘍の予防についての教育も効率よく実施できる。 | | | | | | |
| 指導体制 | 講義、演習、実習、研究は、小児がん拠点病院及びがんゲノム中核拠点病院である九州大学において、本プラン所属の教員および関係講座所属の教員の協力体制にて実施する。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | がん診療連携拠点病院において予防、診断、治療、緩和、長期フォローアップに至るまで、多岐にわたる小児がん診療を実践できるとともに、独自の視点を持った研究の遂行や治験・臨床試験を立案・実践できる医師として活躍できる。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 福岡県および隣県の11（福岡県6）の小児がん拠点・連携病院に小児血液・がん専門医を2人ずつ配置することを目標にすると小児血液・がん専門医14人（福岡県11人）のため今後6年間で小児血液・がん専門医を5人養成する。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 九州大学大学院医学系学府医学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 次世代の病理学コース（正規課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 九州沖縄においては、地域に根ざした病理診断医として、生検検体や切除検体の病理診断、術中迅速診断を適切に担える人材の充実が必要である。さらに近年急速に発展するがん組織の分子生物学的特徴を踏まえた個別化医療を実現するため、治療バイオマーカーとしての病理診断を実施し、さらには独創的な研究活動も行える病理診断医を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目20単位以上、選択科目12単位以上、合計32単位以上の習得および臨床研究の経験 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 低年次共通科目（1単位以上）、がん専門医師養成共通教育科目（次世代の病理診断学など）（1単位以上）、実習科目臨床腫瘍学実習（12単位）、博士論文演習科目（6単位）など計20単位以上 <選択科目> 専攻コア統合科目 がん専門医育成コース入門(1)～(4)（4単位）、専攻コア選択科目(8単位以上) | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 日本専門医機構 病理専門医の研修施設に認定されている。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 医療施設毎に診断・治療に携わる診療科により、提出される検体は様々である。病理診断を広く熟知し、かつ医療施設の特長に対応可能ながん診療連携施設で活躍できる病理診断医を養成する | | | | | | |
| 指導体制 | 九州の各医療圏における専門人材不足を解決するために、当該地域の医療者を対象として九州の教育施設で養成することは、課題解決には極めて効率的であり、講義、演習、実習、研究は本プラン所属の教員および関係講座所属の教員の協力体制にて実施する。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | がん診療連携拠点病院において病理診断を実践できるとともに、個別化医療のための新たなバイオマーカーを検索し、臨床研究などを立案・実践できる医師として活躍できる。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 3 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 福岡県および隣県の35（福岡県20）の地域がん診療連携拠点病院に病理専門医を6人ずつ配置することを目標にすると病理専門医187人（福岡県125人）のため今後6年間で病理専門医を5人養成する。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から隔年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を3人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | |
|--------------------|---|
| 大学名等 | 九州大学大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野 |
| 教育プログラム・コース名 | 医用量子線データサイエンティストコース（正規課程） |
| 対象職種・分野 | 医学物理士・診療放射線技師・医学研究院保健学部門医用量子線科学分野修士課程及び博士後期課程 |
| 修業年限（期間） | 修士課程：2年（社会人で3年コースを選択の場合3年） 博士後期課程：3年（社会人で4年コースを選択の場合4年） |
| 養成すべき人材像 | <ul style="list-style-type: none"> ・がんの予防、診断、治療に関する課題をデータサイエンス技術で解決し、臨床応用できる総合知を身につけた医用量子線データサイエンティスト（例：医学物理士、診療放射線技師）を養成する。 ・医用画像やゲノム情報を含む臨床ビッグデータを適切に管理解析し、がん予防に貢献できる人材の育成を図る。 ・画像診断、核医学、放射線治療に関する医学物理の専門的知識を活用し、がん治療や予防に有効な次世代医療機器開発に貢献する人材養成を図る。 ・医学物理学及び放射線技術科学の研究者として、自立し独創的研究活動を行い、高度な専門的業務に従事するために必要な問題解決能力及びその基礎となる豊かな学識とグローバルな視野を持つ人材を養成する。 |
| 修了要件・履修方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・修士課程：医学系学府保健学専攻修士課程の修了要件を満たし、修士論文の最終試験に合格すること。 ・博士後期課程：医学系学府保健学専攻博士課程の修了要件を満たし、博士論文の最終試験に合格すること。 |
| 履修科目等 | <ul style="list-style-type: none"> ・修士課程： <ul style="list-style-type: none"> [必修科目] 基礎電磁波論(1単位)、医用線量計測学(1単位)、保健医療とIT(1単位)、保健学研究論(2単位)、量子線治療科学論(2単位)、放射線防護学(1単位)、医用量子線科学特別研究(10単位) [選択科目] 基礎量子力学(2単位)、医学物理情報理論(2単位)他 ・博士後期課程：本課程に3年以上在学して14単位以上[必修科目のヘルスサイエンス論(2単位)、医療英語(2単位)を含む]修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要 |
| がんに関する専門資格との連携 | 本学医学系学府保健学専攻医用量子線科学分野は、医学物理士認定機構から医学物理教育コース（名称：医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース）として認定されている。 |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | <ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型技術（人工知能技術を含むデータサイエンス技術）を用いて、臨床現場で働く医用量子線データサイエンティスト（ゲノム情報を含む）として必要な、画像診断、核医学、放射線治療の理工学的知識と臨床医療の課題解決に対応できる医学物理融合型の総合知を身につける。 ・画像診断、核医学、放射線治療に関する医学物理領域の専門性を活かした、がん治療や予防に有効な先端・次世代の医療機器開発に貢献できうる高度な理工学的知識を身につける。 |
| 指導体制 | 各指導教員の下適切な指導を受け、修士論文または博士論文の研究を推進する。 |

| | | | | | | | |
|--|--|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|----------|
| 修了者の進路・キャリアパス | <ul style="list-style-type: none"> ・医療の臨床現場で働く医学物理士及び診療放射線技師が医療データサイエンティストとして、画像診断、核医学、放射線治療に関し、がん治療や予防の推進に貢献する指導的立場で臨床業務に従事する。 ・企業等の技術者として、画像診断、核医学、放射線治療に関する医学物理領域の専門性を活かした、がん治療や予防に有効な先端・次世代の医療機器を開発する。 ・大学等の研究者として、医学物理における多様な知識創造活動を行い、先進的な医学物理学の学問体系の構築に寄与する。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 <small>※新規に設置したコースに限る。</small> </small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 40 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 福岡県および隣県の29（福岡県12）のがん放射線治療病院（年間100件以上、 https://www.avenir-executive.co.jp/parttime-dr/article/190524-ranking-japan-jastro/ ）に医学物理士または診療放射線技師を5年で2人ずつ配置することを目標にすると、58名の医学物理士または診療放射線技師が必要となる。過去の大学院入学者数から毎年度8人の入学者が見込まれるため、受入れ目標人数を8人と設定し、合計40名の育成を目指す。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 九州大学大学院医学系学府保健学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程 | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 保健学専攻検査技術科学分野（細胞検査士コース） | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 2年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムの取り組みであるがんゲノム医療に必要ながんの的確なる細胞診断能力を身につける。 ・臨床現場の病理学分野において、細胞検査士としての的確な細胞診断業務を行えること。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・修士課程終了のために、本過程に2年間以上在学して30単位を終了し、日本臨床細胞学会の認定試験である細胞検査士の資格取得を目指す。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <p><必修科目> 保健学研究論：2単位、国際社会とチーム医療：2単位、保健・医療とデータ化学：1単位等、<u>病態情報解析検査学演習(2単位)</u>、検査技術科学特別研究(10単位)</p> <p><選択科目> 医療と生命倫理（2単位）、<u>先端医療論（2単位）</u>、病態情報機能検査学（2単位）、生体情報解析検査学（2単位）ほか</p> | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 日本病理学会、日本臨床細胞学会の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 修士の学位を取得するだけでなく、在学により細胞検査士の受験資格を取得し、さらには在学中に資格取得が可能である。また、細胞検査技士を取得することにより、国際細胞診検査士認定試験の受験資格も取得可能である。 | | | | | | |
| 指導体制 | がんゲノム医療中核拠点病院である九州大学病院 病理診断科・病理部等でゲノム医療を担う病理診断医、細胞検査士が実際の診療現場で指導を行う。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | <ul style="list-style-type: none"> ・日本臨床細胞学会の認定資格である細胞検査士の取得を目指し、資格取得後はがんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院の病院病理部等で業務にあたる。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 九州内の5つのがんゲノム医療中核拠点病院及びがんゲノム医療拠点病院がん拠点病院と20つのがんゲノム医療連携病院にがんゲノムに精通した細胞検査士を配置することを目標とする。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 九州大学大学院薬学府臨床薬学専攻博士課程 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん創薬研究薬学コース博士課程 | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 薬学府臨床薬学専攻博士課程 大学院生 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成する。これらを通じて、新たな治療法を開発できる人材（個別化医療・創薬研究を担う人材）を養成し、医療健康に貢献する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 「先端医療薬学研究実験（がん研究）」の必修科目32単位、「先端医療薬学研究演習」、「臨床研究演習」、「臨床試験演習」、「腫瘍関連講義」、「腫瘍関連研究・実習」及び「創薬・臨床コラボ実習」の選択科目から8単位以上、計40単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 先端医療薬学研究実験（がんおよび痛みなど緩和医療に関する研究）（32単位） <選択科目> 先端医療薬学研究演習Ⅰ～Ⅲ（各4単位）、腫瘍治療学Ⅰ～Ⅱ（各2単位）、腫瘍治療学実習（4単位）、創薬・臨床コラボ実習（4単位）、臨床研究演習（2単位）、臨床試験演習（1単位） | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 認定薬剤師（日本臨床薬理学会）の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 平成24年度設置の薬学府臨床薬学専攻博士課程（4年間）において、がんの新たな治療法を開発できる人材（個別化医療・創薬研究を担う人材）を養成するためがんの基礎・臨床に関する研究、講義、演習及び実習を行う。 | | | | | | |
| 指導体制 | 講義は、多職種との協働でチーム医療を醸成する。研究は、部局内の複数指導教員体制により実施する。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 薬理遺伝学・時間薬理学、希少がん、痛みなど緩和医療における創薬から育薬までを担う薬剤師、研究者及び指導者を養成する。医療現場・企業のがん領域で即戦力となる人材を養成することにより、がん領域における医療の質の向上や産業・経済の発展に貢献できる。これらを通じて、新たな治療法を開発できる人材（個別化医療・創薬研究を担う人材）を養成し、医療健康に貢献する。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去の大学院志願者数から毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人と設定する。また九州地方の薬剤師の地域偏在解消を目的として、今後5年間で10人養成する。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|-----|
| 大学名等 | 九州大学、福岡大学、久留米大学、産業医科大学、大分大学、長崎大学、佐賀大学、熊本大学、鹿児島大学、宮崎大学、琉球大学（計11大学） | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 各大学大学院生・各大学附属病院および九州内関連病院の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、遺伝カウンセラー等多職種の医療従事者 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 2年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がん医療に携わる近隣の多職種の医療従事者とがん専門領域の知識を共有し、受講者が1.がん医療の現場で課題への対応、2.がん予防の推進、3.新たながん治療法の開発が可能となることを目的とする。大学院教育水準で作成されたeラーニング教育コンテンツを用いて学習することで、個々の専門領域に加えて、新たに求められる課題に広く配慮できる人材の養成を目指す。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | <ul style="list-style-type: none"> 必要な研究指導を受けた上で、eラーニング必修科目1単位の習得及び選択科目1単位以上、または2単位以上に相当する講義数を受講し、（ミニテスト・アンケートを行うことでその項目の学習完了とする 各大学が指定するがんプロ事業に係るシンポジウム・セミナー等への2回の参加またはレポート提出 ※各大学において、本コースにて養成すべき人材像に鑑み、上記に加えて、別途修了要件を定めることを妨げない。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <eラーニング必修科目> 全国がんプロeラーニングクラウドにおける、下記3科目の中から1単位以上・次世代のがん治療総論（1単位） <eラーニング選択科目> 全国がんプロeラーニングクラウドにおいて、eラーニング必修科目以外の科目を選択して学習することも可能。1単位以上に相当する講義数を受講する。 <がんプロ事業に係るシンポジウム・セミナー等への参加> 各大学が指定するがんプロ事業に係るシンポジウム・セミナー等への2回の参加。参加できない場合は、受講科目に関するレポート提出をもって代用とする。 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | なし | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 九州は多数の全国における離島・僻地の49%を有しており、がん医療の均てん化を進めていく上で、僻地医療を支える多職種の医療人に対する教育が求められる。本プランではこれまでも様々な離島・僻地対策を行ってきたが、加えて本インテンシブコースではeラーニングを活用することで、九州のどの場所においても最新の専門領域の講義が視聴講可能となる。 | | | | | | |
| 指導体制 | eラーニングを活用することで、空間的・時間的な制約なくいつでも新かつ高度な情報にアクセスできる状況を提供可能となる。毎年開催している九州がんプロ全体研修会において、多職種においてディスカッションを行い、理解を深める。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 疼痛緩和、がん関連学際領域、がん経験者のケア、がん予防、免疫療法等、受講者それぞれの選択内容に応じたがん医療における知識を身につけた人材として、地域のがん臨床診療拠点病院の中核として活躍する。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 200 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去のインテンシブコース受講者数及び入学ニーズ調査から毎年度40人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を40人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 福岡大学大学院医学研究科 先端医療科学系専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がんサバイバーの苦痛に対応できるがん専門医療人育成コース（正規課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 福岡大学大学院医学研究科 先端医療科学系専攻 臨床腫瘍学 大学院生 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がんサバイバーに対して、年齢や性別、時期に応じて患者が抱える身体的、精神的、社会的な問題点を理解した上で患者の支援ができ、かつ急性期のみならず晩期の治療関連毒性にも配慮した治療を実践できるがん専門医療人を育成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 教育課程共通科目8単位以上、教育課程別専攻科目22単位以上、合計30単位以上を履修し合格しなければならない。学位論文作成。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 講義シリーズⅠ(4単位) 講義シリーズⅡ(4単位) 腫瘍生物学、腫瘍治療学、腫瘍診断学(各4単位) <選択必修科目> 臨床腫瘍学講義、臨床腫瘍学演習、臨床腫瘍学特別演習、臨床腫瘍学実習等 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）などがん治療に関する学会の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 全国e-learningクラウドシステムを利用して大学病院以外で働いている医師が社会人大学院生として入学できる。 テレビ会議システムを使って大学病院外で講義やセミナーを受講できる。 | | | | | | |
| 指導体制 | 教育過程の講義、演習を受け、研究者としての素養を積む。各専攻科の教員を中心とする指導体制の下で研究を推進する。2年次の終わりには研究計画・研究成果の一部を発表し、教員や院生と議論することで研究の質の向上と遅滞ない研究の遂行を促す。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 地域のがん診療病院で、診療チームのリーダーとしてがん患者の治療や支援に携わる。在宅診療医もしくはかかりつけ医として、がん診療病院の医療者と連携してがん患者の闘病生活を支援する。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去の入学実績より、受入れ目標人数を年1人と設定した。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|-----|
| 大学名等 | 福岡大学大学院医学研究科 先端医療科学系専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 多職種連携がん専門医療人育成コース（インテンシブコース） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師、看護師、薬剤師、リハビリ技師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、等 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 1年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がんサバイバーが抱える様々な苦痛を把握し、的確な支持医療・緩和ケアを提供できる医師、看護師、薬剤師等の医療人を育成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 緩和医療、がん相談支援、AYA世代支援、老年腫瘍学、支持医療、がん関連学際領域など複数の科目にわたるがんセミナーを受講し、知識を修得する。それぞれの講義で学習成果を評価し、8割以上の科目で合格することを修了要件とする。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 緩和医療、がん相談支援、AYA世代支援、老年腫瘍学、支持医療、がん関連学際領域など、従来の外科的、内科的、放射線治療以外の科目について履修する。 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 多職種を対象とするため、特に連携する専門資格は設定していない。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 年間の教育プログラムに則って学習するため、普遍的に知識を習得できる。またセミナーを受講した後に小テストを行い、学習成果を評価する。セミナーの動画を撮影し、繰り返し学習することで学習効果を高める。 | | | | | | |
| 指導体制 | がん診療の専門資格をもつ医師、看護師、薬剤師が中心となって教育内容を検討し、指導を行う。自施設では足りない領域に関しては、連携する施設に講師の派遣を依頼する。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 自分の専門分野の医療を提供するのみならず、他職種と連携して患者の苦痛を緩和できるチーム医療を推進していく。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年7月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 20 | 30 | 30 | 30 | 30 | 30 | 170 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去に実施したセミナーの参加人数から算出した。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 久留米大学大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット 「放射線療法専門医養成コース」 | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 放射線治療を専門とする医師は少なく、がん診療における均てん化が難しい現在において、地域医療ならび各診療科とも連携できる放射線治療専門医師を育成する | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 共通科目6単位、論文実習5単位、専攻科目4単位（必修）、コース科目20単位（講義4単位、実習16単位）の合計35単位 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 「臨床腫瘍学・基礎編（4単位）」 「放射線療法・総論（2単位）」 「放射線療法・概論（4単位）」 「放射線腫瘍治療学実習（8単位）」 「応用臨床画像診断学実習（8単位）」など | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 放射線専門医取得 放射線治療専門医取得 日本がん治療認定医取得 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | がん治療における放射線療法については、総論として、放射線治療の種類、方法の細分化、物理的検証についての知識、生物学的影響への知識を身に付けることが重要である。総論の知識を基礎として、各疾患に対する放射線療法の介入を正しく理解し、各診療科とともに集学的治療の一貫として放射線療法が位置付けられていることを教育することは重要なことである。化学療法、手術療法、免疫療法、温熱療法との併用を行うことにより、患者の生存率が向上し、有害事象を軽減し、より豊かな人生の一助になるべく、豊かな感性と知識と技術をもった専門医師を育成していく。 | | | | | | |
| 指導体制 | 久留米大学放射線腫瘍センター 教授 淡河恵津世、助教4名 外科学講座 教授2名、講師1名 放射線医学講座 教授1名、准教授1名 講師1名 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 放射線治療機器のある施設での専門的業務 大学病院等による更なるスキルアップと専門職を生かした職務 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 都道府県内の5つのがん拠点病院に放射線治療専門医の常勤医師を最低3人ずつ配置することを目標にすると、都道府県内の放射線治療専門医数が10～20人であり、都市部に偏在しているため、今後5年間で15～20人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度3人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を3人と設定する。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | |
|--------------------|--|
| 大学名等 | 久留米大学大学院医学研究科修士課程看護学専攻 |
| 教育プログラム・コース名 | 専門職養成コース がん看護分野 CNS養成 |
| 対象職種・分野 | 看護師 |
| 修業年限（期間） | 2年 |
| 養成すべき人材像 | 治療期・終末期において症状マネジメントに基づき、緩和ケアと支持療法を並行し、患者をエンパワーメントし、地域ケアシステムの中で在宅と医療施設を繋ぎ、多職種と連携し、患者アウトカムの向上を目指すことができる高度実践看護師を養成する。 |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目38単位以上を取得し、最終専攻に合格すること。大学院終了後は日本看護協会の高度実践看護師認定試験に合格することを目標とする。 |
| 履修科目等 | <p><必修科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通科目A+B合計14単位 A:看護倫理、看護研究方法、看護政策論、看護理論、コンサルテーション論、B:臨床薬理学概論、フィジカルアセスメント、病態生理学、専攻分野共通科目6単位:がん診断治療学、がん看護特論、がん看護援助論、専攻分野専門科目8単位:がん薬物療法看護特論Ⅰ、Ⅱ、がん緩和ケア特論、がん緩和ケア地域連携援助論、コンサルテーション論(すべて2単位)、がん看護学実習Ⅰ～Ⅴ(10単位)の計38単位以上 ・ e-learningによる履修 |
| がんに関する専門資格との連携 | 個別目標である「がんとの共生」分野の分野別目標に対して、相談支援や情報提供の役割を担う久留米大学腫瘍センター内のがん相談支援室のがん看護専門看護師と連携する。退院支援や地域で過ごす患者に対する個別性の高い看護を提供できる支援体制を作る。学習会での知識共有や、久留米ネットワークセミナーに著明な講師を迎えて基調講演を行う。サポーターとして履修生のスキルアップも目指し、相談支援センターへ人員を派遣することも今後検討する。 |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | がん医療の個別施策を推進するためには、在宅療養を推進する地域コーディネイト力や多職種の役割を最大限に生かす調整力を持った人材、地域住民に対する啓発活動を実践するための教育的スキルを持った人材育成が必要である。本教育コースは、総合大学という強みを生かし医学と教育学のスペシャリストとコラボレーションし、協同学習、コーチングの講義・演習を行ない、がん緩和ケア地域連携教育力の向上をねらうプログラムを取り入れている。相手を尊重する協同学習の手法は、セルフマネジメントを尊重した患者中心の教育支援に繋がる。また、在宅緩和ケアを推進する施設や、携わる医療従事者が多い地区の連携拠点病院であることを生かし、個別性のある実践や卓越した連携を学ぶ機会も多い。卓越した症状マネジメント力を育成するためには、シミュレーション教育を取り入れた演習を積み重ね、症状変化に対応できる専門看護師を育成している。また、地域との連携に関してはICTによるデータ共有ができる遠隔看護システムを導入しており、訪問看護ステーションとの学習会も重ねている。専門看護師としてのコンサルテーション力の修得については、経験豊富ながん看護専門看護師が行う相談支援センターでの実習経験を振り返ることから、コンサルティの体験を重要視し、相互作用の中で相手の教育力の向上をねらい、地域で生きるがんサバイバーを支援できる人材を育成するプログラム構成としている。 |

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|----|
| 指導体制 | 久留米大学大学院医学研究科 教授 原 頼子、准教授 桐明あゆみ 教育学のスペシャリスト2名、 医学部看護学科専任教員4名、 兼担講師（がん看護専門看護師）4名 | | | | | | |
| 修了者の進路・ キャリアパス | 第1期がんプロから、コース履修者と修了生により構成される久留米ネットワークを形成し、キャリアディベロップメントを行い、個々のキャリアプランを支援している実績がある。継続教育では資格審査受験への支援、資格取得後では、組織の中で感じている専門職者としてのジレンマに関する相談や、組織構築上の問題に対しスーパーバイズを行っている。さらに、がんプロ共催による久留米ネットワークセミナーを毎年開催し、高度実践看護師コース修了生のフォローアップのみならず、インテンシブコース履修生への質の高いがん看護実践力の向上が図れる。すでに修了生の中からロールモデルとなる人材が育っている。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 受入目標人数設定の 考え方・根拠 | 福岡県内の22つのがん拠点病院にがん看護専門看護師数は37人所属している（2022年）。がん看護専門看護師を最低2人ずつ配置することを目標にすると、今後5年間で10人養成することができることは意味がある。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定している。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 久留米大学大学院医学研究科修士課程看護学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」(インテンシブコース) | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 地域医療に携わる医療従事者 | | | | | | |
| 修業年限(期間) | 2年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 在宅と医療施設を繋ぎ、地域ケアシステムの中で多職種と連携し、患者アウトカムの向上を目指し、地域コーディネイト力や多職種の役割を最大限に生かす調整力を持った医療者 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 本教育プログラム(インテンシブコース)で定める科目について、選択した科目を履修し、所定の単位を修得したら、単位を認定する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 専攻分野共通科目:がん診断治療学(2単位)、がん看護特論(2単位)、がん看護援助論(2単位)、専攻分野専門科目:がん緩和ケア特論、がん緩和ケア地域連携援助論(2単位)から選択する e-learningによる履修 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 個別目標である「がんとの共生」分野の分野別目標に対して、相談支援や情報提供の役割を担う久留米大学腫瘍センター内のがん相談支援室のがん看護専門看護師と連携する。退院支援や地域で過ごす患者に対するより良い看護を提供できる支援体制を作る。学習会での知識共有や、久留米ネットワークセミナーに著明な講師を迎えて基調講演を行う。サポーターとして人員を派遣することも今後検討する。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等(新規性・独創性等) | 本コースでは、地域医療システムに必要とされるがん緩和ケア地域連携におけるコーディネーターとしての能力向上について探求するがん緩和ケア地域連携教育論を履修する。本大学では、総合大学という強みを生かし医学と教育学のスペシャリストとコラボレーションすることができ、協同学習、コーチングの講義・演習を取り入れている。加えて、大学病院に勤務する経験豊かながん看護専門看護師による講義も履修することで連携を最大限に生かす調整力を持った人材、地域住民に対する啓発活動を実践するための教育的スキルを持った人材養成ができる。 | | | | | | |
| 指導体制 | 久留米大学大学院医学研究科 教授 原 頼子、准教授 桐明あゆみ 教育学のスペシャリスト2名、 医学部看護学科専任教員4名、 兼任講師(がん看護専門看護師)4名 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | インテンシブコース修了生は、地域におけるがん緩和ケア連携教育の企画・運営を担うことになるが、久留米ネットワーク(教育課程履修生・修了者で構成される)に所属するがん看護専門看護師が活動を支援することにより、質の高い連携教育力が提供できる。また、毎年開催されるがんプロ共催による久留米ネットワークセミナーに参加することにより、フォローアップが受けられ、九州内の緩和ケア従事者との連携の輪が広がる。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 久留米大学病院看護部は、オンコロジーナースを養成し多数の院内資格認定看護師を輩出してきた歴史があるが、現在は養成の継続が途絶えている。そこで、インテンシブコースをがんに強い看護師養成という形で、看護部と共に資格認定の仕組みを整え連携体制を作ることで、毎年2名ずつ養成していくことを目標とする。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 産業医科大学大学院医学研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん治療と就労の両立支援医師養成コース（正規課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がん治療を受ける患者の就労における問題を理解し、就労を継続するための両立支援を自ら実践し、指導できる医師を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 4年間で共通科目6単位、コースの定める科目24単位を含む専門領域科目30単位を修得し、合計36単位以上を修得する。並行して、がんを専門とする専門医資格に必要な診療科を選択し研修する。必要な論文指導を受けた上で、博士論文の審査および最終試験に合格する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 産業医学研究基盤コース（2単位）、医学研究概論（2単位）、産業医学特論（1単位）、 医学英語特別コース（1単位） <選択科目> がん治療の基本原則Ⅱ（2単位）、各種がんの治療（2単位）、がんの生命倫理、法的経済的問題、心理社会的側面（2単位）、ほか22科目 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | コース修了後は日本臨床腫瘍学会専門医の申請資格として認定、日本がん治療認定医機構の「がん治療認定医」の受験資格10単位を取得できる。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 各臓器の癌治療の内容を理解すると同時に、全国に先駆けて設置された当大学の両立支援科および実際の企業で勤務している産業医との連携を通じて両立支援の実際を学ぶことにより人材を養成する。研修として両立支援科が主催するカンファレンスやセミナー等に参加する。 | | | | | | |
| 指導体制 | がんに関する基礎的知識を担当する講座、がん診療を行う診療科による講義とともに、両立支援科、産業医等による実地指導を行う。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 地域のがん診療拠点病院等の基幹病院において両立支援を推進していくリーダー的がん専門医として活躍できる。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | がん診療を行うすべての病院で治療と就労の両立支援が行われるべきであるが、現在は十分な状況ではない。少しでも多く両立支援のモチベーションを持つ医師を育成することを目標としている。今回の目標人数は当大学でのキャパシティ、希望する学生数の推測から算出した。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 産業医科大学大学院医学研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がんゲノム医療重点コース（正規課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がんゲノムの異常について理解し、患者個別の解析結果から最適な治療選択を自ら行いまた、指導できる医師を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 4年間で共通科目6単位、コースの定める科目24単位を含む専門領域科目30単位を修得し、合計36単位以上を修得する。並行して、がんを専門とする専門医資格に必要な診療科を選択し研修する。放射線科での研修を必須とする。必要な論文指導を受けた上で、博士論文の審査および最終試験に合格する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 産業医学研究基盤コース（2単位）、医学研究概論（2単位）、産業医学特論（1単位）、 医学英語特別コース（1単位） <選択科目> がん治療の基本原則Ⅱ（2単位）、各種がんの治療（2単位）、がんの生命倫理、法的経済的問題、心理社会的側面（2単位）、ほか22科目 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | コース修了後は日本臨床腫瘍学会専門医の申請資格として認定、日本がん治療認定医機構の「がん治療認定医」の受験資格10単位を取得できる。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 講義によるがんゲノム異常に関する基礎的知識を習得することに加えて、実臨床で行われるエキスパートミーティングに参加し基礎と臨床の橋渡しが可能な医師を養成する。 | | | | | | |
| 指導体制 | 臨床遺伝専門医、遺伝性腫瘍専門医による講義や、研修中に実臨床における遺伝家運セラーによるカウンセリングに陪席する。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 地域がん診療拠点病院等の基幹病院の各診療科においてがんゲノム医療の推進役として活躍する。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 今回の目標人数は当大学でのキャパシティー、希望する学生数の推測から算出した。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 産業医科大学大学院医学研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん治療と就労の両立支援医師養成コース（インテンシブコース） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 1年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がん治療を受ける患者の就労における問題を理解し、就労を継続するための両立支援を自ら実践できる医師を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | コースの定める科目24単位を履修し、がん治療の原則を学んだうえで、がんを専門とする診療科を3臓器・領域より選択し実際の症例を経験する。修了時にはインテンシブコース修了証を与える。臓器・領域とは、「造血器、呼吸器、消化器、肝・胆・膵、乳房、婦人科、泌尿器、頭頸部、骨軟部、皮膚、中枢神経、胚細胞、小児、原発不明」。 | | | | | | |
| 履修科目等 | がん治療の基本原則Ⅱ（2単位）、各種がんの治療（2単位）、がんの生命倫理、法的経済的問題、心理社会的側面（2単位）、ほか22科目 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | なし | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 両立支援科および実際の企業で勤務している産業医との連携を通じて両立支援の実際を学ぶことにより人材を養成する。研修として両立支援科が主催するカンファレンスやセミナー等に参加する。 | | | | | | |
| 指導体制 | がんに関する基礎的知識を担当する講座、がん診療を行う診療科による講義とともに、両立支援科、産業医等による実地指導を行う。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 地域のがん診療拠点病院等の基幹病院において両立支援を実践する医師として貢献できる。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 当大学における過去のがんプロコース志願者および今後の志願者が見込みから目標人数を設定した。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 産業医科大学大学院医学研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がんゲノム医療重点コース（インテンシブコース） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 1年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がんゲノムの異常について理解し、患者個別の解析結果から最適な治療選択を含む診療行為を行える医師を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | コースの定める科目24単位を履修し、がん治療の原則を学んだうえで、希望する1つ以上のがん専門の診療科での研修を行い、がん治療医の養成を目指す。修了時にはインテンシブコース修了証を与える。 | | | | | | |
| 履修科目等 | がん治療の基本原則Ⅱ（2単位）、各種がんの治療（2単位）、がんの生命倫理、法的経済的問題、心理社会的側面（2単位）、ほか22科目 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | なし | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 講義によるがんゲノム異常に関する基礎的知識を習得することに加えて、実臨床で行われるエキスパートミーティングに参加し基礎と臨床の橋渡しを理解できる医師を養成する。 | | | | | | |
| 指導体制 | 臨床遺伝専門医、遺伝性腫瘍専門医による講義や、研修中に実臨床におけるカウンセリングに陪席する。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 地域がん診療拠点病院等の基幹病院の各診療科においてがんゲノム医療の推進役として活躍する。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 当大学における過去のがんプロコース志願者および今後の志願者が見込みから目標人数を設定した。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 佐賀大学大学院医学系研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医学系研究科博士課程医科学専攻大学院生 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 佐賀大学、地域基幹病院を中心とする地域ネットワーク形成と、患者のライフステージに合わせた、専門的ながんチーム診療を構築する医療人を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目28単位を含む規程の科目を履修し、試験に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <p><必修科目> 臨床医学研究法講義(2単位)、臨床医学研究実習(12単位)、生命科学・医療倫理講義(2単位)、疫学・調査実験法(2単位)、基礎腫瘍学(2単位)、臨床腫瘍学(2単位)、腫瘍薬物療法実習(6単位)など</p> <p><選択科目> <u>がんゲノム医療実習</u>、小児・希少がん医療講義、ライフステージに応じた医療、放射線治療実習、緩和ケア実習、創薬科学実習、<u>病理診断実習</u>(各3単位)から計6単位を履修。科目によってはe-ラーニングでの対応も可能。</p> | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 急速に進歩するがん医療に対応できる医師の養成を行うため、創薬科学講座における創薬科学の実習、がんゲノム医療の実習、小児がん・希少がん治療、あるいは青年期から高齢者までライフステージに応じた治療戦略を、施設・職種横断的に取り組む。 | | | | | | |
| 指導体制 | がんゲノムエキスパートパネル、その事前勉強会への参加、e-learningを用いた自己学習を行う。また、がん薬物療法専門医、創薬科学講座の准教授、放射線治療医、病理診断医、緩和ケア医、小児血液腫瘍医、がんゲノム担当医により直接実習指導を行う。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 佐賀県下において、佐賀大学、地域基幹病院を中心とする地域ネットワークにおいて専門的知識を生かし、佐賀のがん医療推進において中心的役割を果たす。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年9月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去のがんプロ大学院志願者数を考慮して受入れ目標人数を6人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻、放射線医療科学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 多面的がん診療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師、歯科医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 神経ブロックや緩和的放射線治療など、多職種連携による集学的な緩和医療、終末期医療を担う専門医療人、がん診療における放射線治療や病理診断、核医学治療を将来的に担う専門医療人 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 本教育プログラム・コースで定める科目について、必修科目8単位、選択科目24単位以上、計32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 集学的がん治療学特論（3単位）、多面的がん治療学実習（2単位）、在宅・離島医療実習（1単位以上）、包括的腫瘍学特論（臨床編）（1単位）、研究支援科目（8単位）、論文研究（8単位）等 <選択科目> 研究支援科目（6単位以上） | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）、緩和医療専門医（日本緩和医療学会）、放射線治療専門医（日本医学放射線学会）、病理専門医（日本病理学会）、核医学専門医（日本核医学会）の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 緩和ケアセンター、放射線科、病理診断科、アイソトープ診断治療学等を含めた診療科横断的な連携、さらには薬剤師・看護師・理学療法士等の多職種連携に基づいて教育を行う。また、在宅医療で先進的取り組みを行っている長崎市医師会Dr. ネットやがん離島中核病院の協力のもと実習を継続して行うことで、地域・僻地医療を理解し、将来的に地域に定着する医療者の育成を目指す。 | | | | | | |
| 指導体制 | 本学大学院医歯薬学総合研究科の教員、研究員や大学病院のがん専門薬剤師、がん看護専門看護師、がん関連認定看護師、理学療法士、MSW等及び長崎市医師会Dr. ネットの在宅医療医師、がん離島中核病院の医師等による指導を行う。腫瘍腎臓病学や老年腫瘍学等のがん関連学際領域に関しては、主幹大学の九州大学と連携して指導にあたる。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 多面的にがん医療を学ぶことで、離島・僻地を含めた医療現場で顕在化している課題を理解し、緩和医療や放射線治療等の専門医資格の取得を推進する。大学病院や地域拠点病院だけでなく、離島を含めた地域に定着するように指導する。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 15 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度3人の志願者が見込まれるため、受入目標人数を15人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 保健学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 遺伝看護・遺伝カウンセリングコース（修士課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 看護師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 2年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 看護師の知識や経験を基盤とし、遺伝/ゲノム医療に関する適切な情報提供と意思決定支援が実践できる認定遺伝カウンセラー がん、生殖医療、難病/希少疾患など、遺伝/ゲノム医療におけるチーム医療を実践できる専門医療人 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 本教育プログラム・コースで定める科目について、必修科目32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <p><必修科目></p> 保健医療社会学特論（2単位）、看護倫理（2単位）、リプロダクティブヘルス分野特別研究（10単位）、 <u>遺伝看護セミナー（2単位のうち7時間）</u> 、 <u>分子遺伝系（2単位）</u> 、 <u>基礎遺伝解析学演習（2単位）</u> 、 <u>遺伝医療学（2単位のうち6時間）</u> 、医療情報特論（2単位）、 <u>カウンセリング技法（1単位）</u> 、 <u>遺伝看護実習（1単位のうち6時間）</u> 、 <u>遺伝カウンセリング実習（6単位のうち10時間）</u> | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 臨床遺伝専門医及び認定遺伝カウンセラー養成の研修施設として認定。 また、遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設、遺伝性腫瘍研修施設に認定されており、遺伝性乳癌卵巣癌に関する全国登録事業参加施設、九州家族性腫瘍ネットワークハブ施設の役割を有する。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 緩和ケアセンター、放射線科、病理診断科、アイソトープ診断治療学等を含めた診療科横断的な連携、さらには薬剤師・看護師・理学療法士等の多職種連携に基づいて教育を行う。また、在宅医療で先進的取り組みを行っている長崎市医師会Dr. ネットやがん離島中核病院の協力のもと実習を継続して行うことで、地域・僻地医療を理解し、将来的に地域に定着する医療者の育成を目指す。 | | | | | | |
| 指導体制 | 大学院医歯薬学総合研究科の教員、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー、家族性腫瘍学会専門医、がん治療認定医等により指導にあたる。本コース学生は看護師資格を有する。遺伝カウンセリングへがん看護の専門知識を応用することを目的とし、がん看護専門看護師より指導を受ける。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 日本人類遺伝学会及び日本遺伝カウンセリング学会共同の認定資格である「認定遺伝カウンセラー」の認定審査を受けることができる。エキスパートパネルやCancer Boardを通して中核拠点病院や連携病院との協働体制を強化するとともに、認定遺伝カウンセラーの適切な配置に寄与する。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 長崎県内の認定遺伝カウンセラー配置施設のニーズ（産休・育休への対応も含む増員）とがん診療連携拠点・推進病院等への新規配置を目指し、受入目標人数を10人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻、放射線医療科学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師、歯科医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 免疫チェックポイント阻害薬やCAR-T療法などを中心としたがん免疫療法とその有害事象に対応できる専門医療人、がんゲノム医療に基づいた分子標的薬等の治療の開発や的確な治療法にの選択を担う専門医療人 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 本教育プログラム・コースで定める科目について、必修科目8単位、選択科目24単位以上、計32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 集学的がん治療学特論（4単位）、がん個別化医療実習（2単位）、包括的腫瘍学特論（基礎編）（1単位）、研究支援科目（8単位）、論文研究（8単位）等 <選択科目> 研究支援科目（6単位以上） | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 緩和ケアセンター、放射線科、病理診断科、アイソトープ診断治療学等を含めた診療科横断的な連携、さらには薬剤師・看護師・理学療法士等の多職種連携に基づいて教育を行う。また、在宅医療で先進的取り組みを行っている長崎市医師会Dr. ネットやがん離島中核病院の協力のもと実習を継続して行うことで、地域・僻地医療を理解し、将来的に地域に定着する医療者の育成を目指す。 | | | | | | |
| 指導体制 | 本学大学院医歯薬学総合研究科の教員、研究員や大学病院のがん専門薬剤師、がん看護専門看護師、がん関連認定看護師、臨床検査技師、臨床遺伝カウンセラー等による指導を行う。新たな治療法の開発や共同研究に関しては、必要に応じて主幹大学の九州大学と連携して指導にあたる。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 県内のがん診療連携拠点・推進病院、がんゲノム医療拠点病院や連携病院だけでなく、関連施設においても、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的薬の適正使用の指導的役割を果たす専門医を育成し、地域定着をはかる。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入目標人数を10人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | |
|--------------------|--|
| 大学名等 | 熊本大学大学院医学教育部 |
| 教育プログラム・コース名 | 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース |
| 対象職種・分野 | 熊本大学大学院医学教育部大学院生、一般医師、後期研修医 等 |
| 修業年限（期間） | 4年 |
| 養成すべき人材像 | <ul style="list-style-type: none"> ・リサーチ・マインドを持ち、かつグローバルな視点で研究を推進することができるがん専門医療人。 ・研修医からシームレスで大学院に進学することにより、研修早期のより若い年代で臨床・研究のバランスのとれたがん専門医療人 ・がん患者の疼痛管理や終末期医療に関する最新の情報に精通し、その知見を個々人のがん治療に応用することができるがん専門医療人 ・消化器がん起因する循環器・腎疾患の症例を多く経験し、その関連に関して包括的な知識を有し、その診断・治療に生かすことができるがん専門医療人 |
| 修了要件・履修方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目14単位以上、選択必修（臨床指導科目）8単位以上、選択科目8単位以上、計30単位以上を履修すること。 ・e-learningシステムにて一部の授業を受講する。 |
| 履修科目等 | <p><必修科目> 講義科目（2単位）、<u>実践Ⅰ</u>（10単位） <u>集学的がん治療学・緩和ケア学実習（初級）</u>（2単位）</p> <p><選択必修（臨床指導科目）> <u>がん外科療法学実践Ⅲ</u>、<u>がん放射線治療学実践Ⅲ</u>、<u>緩和ケア学実践Ⅲ</u>、<u>がん化学療法学実践Ⅲ</u>、その他2科目（各科目8単位）</p> <p><選択科目> <u>腫瘍先端医学理論Ⅰ</u>（2単位）のみ必ず選択。 <u>がん治療学理論</u>（2単位）、<u>腫瘍先端医学理論Ⅱ</u>（2単位）、その他多数。）</p> |
| がんに関する専門資格との連携 | 日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設として認定。 |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | <ul style="list-style-type: none"> ・研修医・大学院一体型消化器がん専門博士養成コースは、初期臨床研修医として研修に従事しながら、社会人大学院学生として研究に従事することをが可能なため、研修早期からの臨床・研究のバランスのとれたがん専門医育成が可能となる。 ・がんの終末期医療についての勉強会、セミナーを定期的開催する。また、それを臨床応用につなげることを目標とし、最終的には地域医療でのがん終末期医療に貢献できる人材の育成を目指す。 ・多くの消化器におけるがんの症例数を確保することができるため、それらの臨床データ、サンプルを用いて、消化器がんの病理診断や腫瘍循環器学や腫瘍腎臓病学に関して網羅的な検証を行うことが可能である。 ・海外のトップクラスの研究機関との国際研究ネットワークに参加することにより、グローバルな視野をもつ研究者の育成を目指す。 |
| 指導体制 | がんに関わる専門資格を有する研究指導教員・研究指導補助教員を研究内容、専攻分野に応じて配置し、個々の大学院生の研究に即した指導体制を整備している。さらに、海外のトップクラスの研究機関との国際研究ネットワークが構築されており、国際共同研究を推進することも可能である。 |

| | | | | | | | |
|--|---|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-----------|
| 修了者の進路・キャリアパス | <p>本教育プログラムで研修することで、より高度ながん診療が実践でき、がんに関する多くの専門資格を取得することができる。また、消化器癌（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵癌など）に関する様々な分子学的変化に関する検証を行い、多くの学会、論文で報告することができ、キャリアパスに繋がる。さらに、国際研究ネットワークに参加することにより、将来的に海外研究機関への留学なども可能となる。</p> | | | | | | |
| 受入開始時期 | <p>令和5年10月（予定）</p> | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 <small>※新規に設置したコースに限る。</small> </small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | <p>過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度4人程度の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を24人と設定。</p> | | | | | | |
| | <p>4</p> | <p>4</p> | <p>4</p> | <p>4</p> | <p>4</p> | <p>4</p> | <p>24</p> |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 熊本大学薬学部 薬学教育部 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん患者個別のライフステージ・QOLに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース（インテンシブコース） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 臨床薬剤師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 3か月 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 異なるライフステージの多様ながん患者（小児、壮年、高齢者など）に適したがん治療を推進し、がん薬物療法の治療効果および副作用モニタリング・多職種連携による集学的な痛みの治療・ケア等を通じて、より質の高い患者個別のがん薬物療法を実践し、がん患者のQOL向上に貢献することができる薬剤師 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 本教育プログラム・コースで定める講義を受講し、実際のがん薬物療法の実務・チーム医療に参加する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 講義 がん薬物療法に係る薬剤管理指導、副作用モニタリング、レジメン管理、外来化学療法時の服薬指導、緩和医療、 <u>TDMの実践</u> 、 <u>地域薬学ケアの実践</u> 実務・チーム医療の実践 電子カルテによる診療情報把握とSOAP記録、抗がん剤調製、疼痛マネジメント 外来化学療法カンファレンス参加、レジメン管理・登録、 <u>TDM（血中濃度測定）</u> | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師研修事業 研修施設 ・日本医療薬学会 がん専門薬剤師認定制度がん専門薬剤師 研修施設 ・日本医療薬学会 地域薬学ケア専門薬剤師 研修施設 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | がん薬物療法の系統講義および実務・チーム医療の実践を行い、様々なライフステージの患者の特性に対応した、がん患者のQOL向上を目指したより効果的ながん薬物療法の実践を可能とする教育を行う。多職種連携による集学的な痛みの治療・ケア、外来化学療法センターとの連携、地域薬学ケアの実践により、患者に対して個別にかつ高度ながん治療を実践することが可能になり、がん治療の均てん化に貢献できることが特色である。 | | | | | | |
| 指導体制 | がん薬物療法に関する高度な知識・技術を有した以下の薬剤師・教員らが指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本医療薬学会認定 がん指導薬剤師、がん専門薬剤師 ・日本病院薬剤師会認定 がん薬物療法認定薬剤師 ・日本臨床腫瘍薬学会認定 外来がん治療認定薬剤師 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 本コースを修了した薬剤師は、日本医療薬学会（がん指導薬剤師、がん専門薬剤師）、日本病院薬剤師会（がん薬物療法認定薬剤師）などの認定取得を経て、がん領域における薬物療法等についての高度な知識と技術を用いて、医療機関において質の高いがん薬物療法の促進に貢献する。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 熊本県内の日本医療薬学会認定がん指導薬剤師が4人のため今後6年間で6人養成することを目標とする。また、新たに熊本県内の日本病院薬剤師会認定がん薬物療法認定薬剤師の養成にも取り組むことも考慮し、受入れ目標人数を8人と設定した。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 大分大学大学院医学系研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 包括的がん治療専門医療人養成コース | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 大分大学医学系研究科大学院生（博士課程） | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | ①腫瘍循環器病学や腫瘍腎臓病学など、がん関連学際領域の基礎と臨床の橋渡しを行う医療人の養成 ②分子標的薬等の種々の治療を理解し、包括的ながん治療に対応できる医療人の養成 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | <選択必修科目・専門科目>がん研究領域の授業科目全19科目各5単位のうちから1科目以上を履修し、博士課程を修了すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <選択必修科目・専門科目> <u>がん放射線治療学</u> 、 <u>呼吸器外科腫瘍学</u> 、他、全19科目 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 放射線科専門医(日本医学放射線学会)の総合修練施設として認定、呼吸器外科専門医(日本呼吸器外科学会)の専門研修期間施設として認定、ほか、15個の学会の研修施設として認定 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 (新規性・独創性等) | ①がん患者にける循環器病学や腎臓病学、老年病学などのがん学際領域の基礎と臨床の両者を理解できるプログラム。②薬理学や放射線生物学など種々の治療法の基礎研究を通じ、より効果的な個別化医療を推進するプログラム。 | | | | | | |
| 指導体制 | 大学院各研究責任者により指導を行う。また、大分大学医学部附属病院や地域のがん診療連携拠点病院、在宅医療機関（在宅医、訪問看護ステーション）等での研究における指導体制を取っている。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 包括的ながん治療のリーダー的基礎または臨床研究者を目指す。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年7月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 30 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 本学を含む都道府県内の6つのがん診療連携拠点病院にがんに関する専門医を最低1人ずつ配置することを目標にすると、都道府県内で今後5年間で25人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度25人程度の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | |
|--------------------|--|
| 大学名等 | 大分大学大学院医学系研究科 |
| 教育プログラム・コース名 | 地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース |
| 対象職種・分野 | 大分大学医学系研究科大学院生（修士課程） |
| 修業年限（期間） | 2年 |
| 養成すべき人材像 | がん患者のさまざまな治療過程やライフステージに応じて、専門性を基盤とした高度な実践や看護職を含むケア提供者に対する教育や相談、研究、保健医療福祉チーム内の調整、倫理的課題の調整ができる看護職の養成。 |
| 修了要件・履修方法 | <p><必修科目・共通科目> 看護理論（2単位）、看護倫理（2単位）、看護研究概論（2単位）、保健医療福祉政策論（2単位）、看護コンサルテーション論（2単位）、看護専門職教育論（2単位）、看護サービス論（2単位）、フィジカルアセスメント論（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）</p> <p><必修科目・専門科目> がん病態生理・治療論（2単位）、がん看護論（2単位）、がん看護援助論（2単位）、緩和ケア論Ⅰ（2単位）、緩和ケア論Ⅱ（2単位）、緩和ケア論Ⅲ（2単位）、緩和ケア論Ⅳ（2単位）、がん看護実践演習（2単位）Ⅰ、がん看護実践演習Ⅱ（2単位）、がん看護実践演習Ⅲ（2単位）、がん看護実践演習（2単位）Ⅳ、<u>がん看護実践課題研究（2単位）</u></p> <p>上記の科目を履修し修士課程を修了すること</p> |
| 履修科目等 | <p><必修科目・共通科目> 看護理論（2単位）、看護倫理（2単位）、看護研究概論（2単位）、保健医療福祉政策論（2単位）、看護コンサルテーション論（2単位）、看護専門職教育論（2単位）、看護サービス論（2単位）、フィジカルアセスメント論（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）</p> <p><必修科目・専門科目> がん病態生理・治療論（2単位）、がん看護論（2単位）、がん看護援助論（2単位）、緩和ケア論Ⅰ～Ⅳ（各2単位）、がん看護実践演習Ⅰ～Ⅳ（各2単位）、<u>がん看護実践課題研究（2単位）</u></p> |
| がんに関する専門資格との連携 | 日本看護協会よりがん看護専門看護師教育課程の認定を得ている（2017.4～2027.3） |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 地域医療の多様なニーズに応じた援助方法や地域包括ケアとしてのチーム医療や在宅医療における連携・調整能力を養うことができる教育内容である。 |
| 指導体制 | 大学院修士課程看護学専攻成人看護学領域担当教員により指導を行う。また、大分大学医学部附属病院や地域のがん診療連携拠点病院、在宅医療機関（在宅医、訪問看護ステーション）等での看護実習等を通しての指導体制を取っている。 |

| | | | | | | | |
|--|--|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|----------|
| 修了者の進路・キャリアパス | <p>①日本看護協会のがん看護専門看護師資格認定を受け、がん診療連携拠点病院及び地域の中核病院で、看護及びチーム医療の向上に貢献する。</p> <p>②看護管理部門の看護実践における変革推進者の中心となり、看護及びチーム医療の向上に貢献する。</p> | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 <small>※新規に設置したコースに限る。</small> </small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | <p>本学を含む都道府県内の6つのがん診療連携拠点病院にがん看護専門看護師を最低3人ずつ配置することを目標にすると、都道府県内のがん看護専門看護師数が15人のため今後5年間で3人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度6人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。</p> | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 大分大学大学院医学系研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 大分大学および地域医療機関の医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカー、理学療法師、放射線技師など | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 2年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がん患者のさまざまな治療過程やライフステージに応じたがん医療を理解し、医療チームのメンバーとして協働できる人材の養成。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 他職種合同での各種医療セミナー、講習会、及びがんプロの設置するe-ラーニングを受講すること | | | | | | |
| 履修科目等 | 九州がんプロ養成プラン大分大学担当委員の企画する各種セミナーの受講及びがんプロの設置するe-ラーニングを受講する。 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 大分県におけるがん診療連携拠点病院である。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | がん予防とがんサバイバーに対応するため、さまざまな治療期やライフステージに応じた全人的苦痛緩和について理解を深めることのできる内容である。 | | | | | | |
| 指導体制 | 各コース責任者・担当者、e-ラーニング担当者などにより企画されるセミナーや講習会を通じて指導を行う。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | がん診療連携病院、地域の中核病院のがん医療においてリーダー的存在となり、チーム医療の完成を目指す。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年7月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 60 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 大分県内におけるがんに関する専門医数及びがん看護専門看護師数などの既に資格を取得している人数を考慮し、直近のインテンシブコースの受講状況から、受入れ目標人数を10人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 包括的がん専門医療人養成コース | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師、薬剤師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 地域に密着し、地域全体のがん医療に貢献できる人材の不足を解決するために、病理診断、放射線治療、小児がん医療、がん薬物療法など基礎から臨床まで幅広い専門知識を習得し、実践することが可能な医療人を育成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 本学の指定する科目を履修し、本学附属病院等での実地研修を行う。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <ul style="list-style-type: none"> ●必修科目 <u>基盤的研究方法特論Ⅰ～Ⅲ（計5単位）</u>、<u>医学獣医学研究特論（1単位）</u>、<u>サイエンスコミュニケーション特論</u>、<u>先端的医学獣医学特論</u>、<u>研究特論（各2単位）</u> 計12単位 ●選択科目【<u>附属病院診療科（放射線科、病理診断科、小児科、臨床腫瘍科）及び薬剤部での演習・実習科目</u>】 小児疾患治療学演習、小児科学演習、臨床画像診断学演習、画像診断学演習、腫瘍病理学演習、腫瘍細胞生物学演習、消化器悪性腫瘍演習、薬物動態学演習（各4単位）のいずれか1科目 計4単位 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 放射線治療専門医（日本医学放射線学会）、病理専門医・口腔病理専門医・分子病理専門医（日本病理学会）、日本血液専門医（日本血液学会）、小児血液がん学会専門医（日本小児血液がん学会）、がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）、がん専門薬剤師（日本医療薬学会）、がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会）、外来がん治療専門薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会）の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | <ul style="list-style-type: none"> ●各専門領域のがん診療専門医による科目を自主的に選考できる。 ●医療資源の少ない地域での実地研修を行い、地域でのがん診療の問題点と対策を考えることができる。 ●地域に特徴的ながん臨床研究を実施することができる。 | | | | | | |
| 指導体制 | <ul style="list-style-type: none"> ●医学獣医学総合研究科の大学院生担当教官 ●放射線治療専門医 ●病理専門医、分子病理専門医 ●日本血液専門医、小児血液がん学会専門医 ●がん薬物療法専門医、がん治療認定医 ●がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | ●基礎医学者コース、放射線治療専門医、小児がん専門医、病理専門医、分子病理専門医、がん薬物療法専門医、がん専門薬剤師等へのキャリアパスが想定される。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年7月（予定） | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 宮崎大学大学院看護学研究科 修士課程 看護学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 3年以上の実務経験を有する看護師（がん看護の実務経験2年以上）で、コース修了後、地域のがん医療に貢献する意思のある者 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 2年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | がんに関する専門的知識、卓越した実践能力、看護職への教育およびコンサルテーション能力、保健医療福祉関係者間のコーディネート能力、倫理的調整能力、がん医療の向上・開発のための研究能力を有し、薬物療法を受ける患者や家族への卓越した看護実践、診療の場を問わない切れ目のない緩和ケアの提供により、対象者のQOL向上を目指した支援ができるがん看護専門看護師を育成する。さらに、がんの予防・医療の充実・がんと共生という包括的な視点を持ってがん医療に貢献できる人材を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 大学院修士課程に2年以上在学し、臨地実習を含む授業科目を46単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて修士論文を作成し、審査に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <p><必修科目>看護倫理実践論、臨床薬理学、フィジカルアセスメント論、病態生理学、がん病態生理学、がん看護学特論、がん看護援助論（以上、各2単位）、がん薬物療法看護論Ⅰ・Ⅱ（4単位）、緩和ケア論Ⅰ・Ⅱ（4単位）、がん看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（10単位）、実践看護者育成特別研究（8単位） 計40単位</p> <p><選択科目>看護研究方法論、看護実践方法論、看護コンサルテーション論、看護教育実践論、看護管理実践論（以上、各2単位）の中から6単位以上。</p> | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | がん看護専門看護師（日本看護協会）の教育課程として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 高齢化が進み、人材資源および医療資源の乏しい地域において、多職種連携によるがん患者に対するチーム医療を推進できるがん看護専門看護師の育成を行う。特に、がん薬物療法を受ける患者の看護や緩和ケアに対する卓越した支援方法を教育する。また、臨地実習を6単位から10単位に増やし、臨地実習施設のがん看護専門看護師や各診療科のがん治療専門医から高度実践のスキルを学ぶ機会を発展・充実させる。さらに、がんの予防・医療の充実・がんと共生に関する研究成果の学会発表および論文作成を通してがん看護研究の推進を図る。 | | | | | | |
| 指導体制 | 看護学研究科担当教員、医学獣医学総合研究科担当教員、本学が輩出してきた地域で活躍するがん看護専門看護師、日本のがん看護を牽引するがん看護専門看護師、臨床薬理専門教員からなる教育指導体制。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | がん診療連携拠点病院や地域でがん診療に取り組む医療施設、在宅医療の場において、がん看護専門看護師としてがん患者のがんと共生を支え、がん医療の充実に貢献できる看護師を目指す。さらに、臨床経験を研鑽した後は、がん看護を教授できる教員・指導者として、また地域のがん医療向上に向けた施策を提言できる看護師として地域がん医療の充実に貢献する。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年7月（予定） | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 6 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1-2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん専門医療人育成プログラム（インテンシブ） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | がん診療に従事している医師、薬剤師、看護師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 1年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 地域医療機関では、未だにがん専門医療人が充足していない。 がんの標準治療から終末期の緩和ケアに関わる医療人を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 概ね9～12月の期間中に20コマ以上の講義を行い、そのうち2分の1以上を受講する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | がん化学療法・分子標的療法、病理学、放射線療法、精神腫瘍学、緩和医療などの総論から各がん腫に関連する講義を行う。（計20コマ以上） | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | がん治療認定医（日本がん治療認定医機構） がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会） 緩和医療学会専門医（日本緩和医療学会） がん専門薬剤師（日本医療薬学会） がん薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会） 外来がん治療専門薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会） の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | がんに関して、標準治療から終末期の緩和医療まで、総合的にがん患者を診療できるようにがんの各分野の専門医が集中講義を行う。 | | | | | | |
| 指導体制 | 宮崎大学医学獣医学総合研究科の教官 薬剤部、看護部、緩和ケアチーム がん患者支援センター | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 各診療科のがん治療専門医、緩和ケアの専門医、がん専門薬剤師、がん専門看護師等へのキャリアパスが想定される | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年7月（予定） | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 12 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去の修了者数を考慮し、医師、薬剤師、看護師から毎年最低2人の修了者を確保することを目標にして、受入れ目標人数を2人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 放射線治療専門医育成コース（インテンシブ） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 放射線医学の診療に従事している医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 1年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 放射線治療は、機器の性能が向上し、より高精度の放射線治療が可能となっている。放射線治療のニーズが今後益々高くなるものと考えられ、幅広い知識と経験を持つ放射線治療医の養成が求められる。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 1コマの講義を毎月4回程度行い、そのうち3分の2以上を受講する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | ①基礎講座：(1)放射線生物学、(2)放射線防護、(3)安全管理 ②臨床講座：(1)放射線治療総論、(2)放射線腫瘍学、(3)治療計画 (計40コマ以上) | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 放射線治療専門医（日本医学放射線学会）の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 放射線治療学に関して、基礎的事項から臨床医学に関する事項まで、専門的な知識を得ることができる。放射線治療専門医取得の要件を示したガイドラインをもとにカリキュラムが作成されており、幅広い領域を網羅したプログラムである。 | | | | | | |
| 指導体制 | 宮崎大学医学部病態解析医学講座放射線医学分野の教官 宮崎大学医学部附属病院放射線部で放射線治療に従事する診療放射線技師・医学物理士 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 宮崎大学医学部病態解析医学講座放射線医学分野の教官 宮崎大学医学部附属病院放射線科 放射線治療部門 担当医 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年7月（予定） | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 8 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 宮崎県内に放射線治療専門医を合計10人配置することを目標にすると、現在2人のため、今後5年間で8人養成する必要がある。毎年最低1人ずつ修了者を確保することを目標にして、受入れ目標人数を2人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 先端がん診断・治療コース（正規課程） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師、歯科医師、薬剤師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | ①大規模な診療情報を医療統計により網羅的に解析することでがんの遺伝カウンセリングを含めた予防医療の実装に貢献できる人材の養成、②コンパニオン診断に基づく分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害剤によるプレジジョンメディシンを実践できる人材の育成、③数多くの離島を有する鹿児島県のがん医療現場で不足している基礎的緩和医療を行い得る専門医療人の養成 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 大学院修了要件と同様の計30単位取得を課す。さらにプログラム・コースの成果を学会発表し、学位論文を作成後に審査を受ける。また本プログラムが指定するキャンサーボードなどのカンファレンスへの参加や連携する他施設医療機関での実習も行う。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 合計30単位が必要。その中に本コース特有の共通コア科目[医歯学研究講義（必修2単位）]、[医歯学倫理学、科学倫理学基礎論]から 選択必修2単位 、[生命科学英語、細胞増殖制御]から 選択2単位 、 合計6単位を修得する 。共通先端科目[データ解析演習、バイオインフォマティクスと医学研究、分子腫瘍学(1)]から 2単位 、専門基礎科目（[高度がん医療学（必修2単位）]、[小児発達病態学、離島医療学特論Ⅰ、薬物動態制御学、腫瘍制御学、放射線診断治療学、血液腫瘍学Ⅰ、血液腫瘍学Ⅱ]）から 選択して4単位以上、合計6単位以上 を取得する必要がある。実験は本来所属する研究分野の授業科目を選択し、 合計16単位 を取得することになる。研究課題のもとに専門誌への論文発表を行い、学位審査を受け | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | がん薬物療法専門医or腫瘍内科専門医（日本臨床腫瘍学会）、がん治療認定医、消化器外科学会専門医（日本消化器外科学会）ほか各診療科別専門医、臨床遺伝専門医等 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 工学部や経済学部などの他学部から講師を招聘し、AIや医療経済に関する高度な知識の習得を目指す。さらに鹿児島県には数少ない陽子線治療施設があるため最新の粒子線治療を学ぶプログラムも組み入れた。 | | | | | | |
| 指導体制 | 医歯学以外の他学部や他施設医療機関の講師や医師以外のメディカル・スタッフも指導者として本プログラムに加わることで包括的ながん医療を学べるように努める。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 鹿児島大学病院でがん医療に関する治験や臨床に関わった後、離島を含めた地域基幹病院での多職種と連携したチーム医療における中心的役割を担うことを想定している。さらに地域定着のための取り組みとして地方公共団体に新たな雇用の創出を働きかける。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年10月 | | | | | | |
| 受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。 | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 11 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 鹿児島県内の6つの地域がん診療病院にがん治療や薬物療法の専門医を最低1人ずつ配置することを目標にすると、鹿児島県内の専門医数が13人のため今後5年間で10人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 臨床腫瘍学講座 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース (インテンシブコース) | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師、看護師、薬剤師 | | | | | | |
| 修業年限(期間) | 6ヶ月 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | クライアントの不安・心配に柔軟に対応できるような、技術者を養成する。正確な情報を提供し、疑問に適切に答え、クライアントの遺伝性疾患等に関する理解を深め、今後の生活に向けて自らの意思で選択し、行動できるように支援し、援助できることを目標にする。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 本教育プログラム・コースで定める科目(90分/回)について、所定の回数を履修する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 遺伝性腫瘍学(基礎)講義 遺伝カウンセリング学(1)講義 遺伝カウンセリング学(2)講義 遺伝性腫瘍サーベイランス学講義 <選択科目> がん遺伝子パネル検査のエキスパートパネル実習 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 臨床遺伝専門医(日本人類遺伝学会)の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等(新規性・独創性等) | 令和元年から当院は「がんゲノム医療拠点病院」に指定されており、約160件/年のがん遺伝子パネル検査が施行され、約50回/年のエキスパートパネル開催、約20件/年の遺伝カウンセリング、約5件/年のサーベイランスが施行されている。 | | | | | | |
| 指導体制 | 「がんゲノム医療拠点病院」であることを活用し、エキスパートパネルへの参加を通じて、本教育プログラム・インテンシブコースで活用する。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 遺伝性腫瘍は、コモンディージーズ、すなわち日常的に高頻度で遭遇する疾患、有病率の高い疾患であり、カウンセリングとサーベイランス技術者は、今後ますます重要になってくることが予想される。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年10月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 24 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 県内の都道府県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院(高度型)、地域がん診療連携拠点病院、特定領域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、12病院に遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者を最低1人ずつ配置することを目標にする。受入れ目標人数を4人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 病院に勤務する薬剤師・調剤薬局に勤務する薬剤師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 6ヵ月 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 効能・効果及び副作用のモニタリングができ、医療機関と保険薬局との連携を行い、地域医療において質の高いがん薬物療法を立案・処方支援できる薬剤師を養成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 講義及び実技指導 | | | | | | |
| 履修科目等 | 講義： 抗がん薬の臨床薬理、支持療法、臨床試験、各がん腫の病態と標準療法について、緩和医療 実技指導： レジメン管理、抗がん薬の調製、薬剤管理指導、抗がん剤の薬物血中濃度測定・解析・処方支援、緩和医療 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 日本病院薬剤師会：「がん薬物療法認定薬剤師」、日本医療薬学会：「がん専門薬剤師」・「がん指導薬剤師」、日本臨床腫瘍薬学会：「外来がん治療認定薬剤師」、日本緩和医療薬学会：「緩和薬物療法認定薬剤師」を取得に向けた連携 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | 多種多様な分子標的薬が発売され、個別医療が進む中でこれらの医薬品の特性を理解した上での個々の体質に合った至適なレジメンを立案・処方支援できる医療機関並びに保険薬局薬剤師を養成する。同時に患者を地域包括的にケアするため、最新の医療知識を持って医療機関と保険薬局同士が連携するための人材育成を目指す。 | | | | | | |
| 指導体制 | 日本病院薬剤師会：「がん薬物療法認定薬剤師」、日本医療薬学会：「がん専門薬剤師」・「がん指導薬剤師」、日本臨床腫瘍薬学会：「外来がん治療認定薬剤師」、日本緩和医療薬学会：「緩和薬物療法認定薬剤師」を持つ薬剤師の講義により本教育プログラム・コースを進める | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | 日本病院薬剤師会の「がん薬物療法認定薬剤師」、日本医療薬学会の「がん専門薬剤師」・「がん指導薬剤師」、日本臨床腫瘍薬学会の「外来がん治療認定薬剤師」及び、日本緩和医療薬学会の「緩和薬物療法認定薬剤師」の資格を取得し医療に貢献できる薬剤師を育てる | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年10月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 60 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | これまでのコース参加から毎年度8-10人の参加者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 大学名等 | 琉球大学大学院医学研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 痛みの治療・ケア、がん学際領域等を担う薬物療法専門医コース | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 医師 | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 医学研究科博士課程 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 島嶼沖縄県は、特に離島地域においてがん医療に精通した医療人材が不足しており、がん治療、緩和医療などがん医療の均てん化が課題である。離島医療においてがん医療の総合的な知識を有し、多職種をまとめてがん対策を推進することができるがん薬物療法専門医の養成を目指す。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | がん薬物療法専門医コースは、医学研究科博士課程に4年以上在学し、計31単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 【がん薬物療法専門医コース】 〈共通科目〉10単位 〈プロジェクト科目〉4単位 〈特別演習〉4単位 大学院特別研究Ⅰ 4単位 大学院特別研究Ⅱ 4単位 〈専門科目〉4単位 〈演習〉長崎大学との連携による在宅・地域医療実習 1単位 | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | がん薬物療法専門医コースにおいて、長崎大学と連携し、同大が本プログラムで実施している在宅・地域医療実習に参画し、在宅がん診療のノウハウを身に付ける。 | | | | | | |
| 指導体制 | がん薬物療法専門医コースは、コーディネーターであり、血液専門医・指導医である福島卓也が、琉球大学病院のがん治療の専門医、緩和ケアチームと連携して指導に当たる。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | がん薬物療法専門医コース修了生は日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医を取得し、県内7中核拠点病院、および離島の施設にてがん診療を担当し、がん診療の均てん化を目指す。また | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | がん薬物療法専門医コースについては、沖縄県内の7つの中核病院にがん薬物療法専門医を最低1人ずつ配置することを目標にすると、現在県内の専門医数が5人のため今後6年間で最低2人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | |
|--------------------|---|
| 大学名等 | 琉球大学大学院医学研究科、保健学研究科 |
| 教育プログラム・コース名 | 痛みの治療・ケア、がん関連学際領域等を担う地域実践型がん看護専門看護師コース |
| 対象職種・分野 | 琉球大学大学院 保健学研究科（前期課程）大学院生 |
| 修業年限（期間） | 2年 |
| 養成すべき人材像 | 島嶼沖縄県は、特に離島地域においてがん医療に精通した医療人材が不足しており、がん治療、緩和ケアなどがん医療の均てん化が課題である。離島医療は医師だけでなく看護職者が担う役割も大きく、がん医療の総合的な知識を有し、多職種をまとめてがん対策を推進することができる地域実践型がん看護専門看護師の養成を目指す。 |
| 修了要件・履修方法 | がん看護専門看護師コースは、保健学研究科博士前期課程に2年以上在学し、計52単位以上を取得し、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。 |
| 履修科目等 | <p>【がん看護専門看護師コース（52単位）】</p> <p><共通科目（14単位）> 看護管理学特論（2単位）、看護理論特論（2単位）、他10単位</p> <p><専攻分野共通科目（6単位）> がん治療学特論（2単位）、がん看護学特論（2単位）、他2単位</p> <p><専攻分野専門科目（8単位）> 緩和ケア特論（2単位）、緩和医療学特論（2単位）、他4単位</p> <p><実習科目（10単位）> がん看護学特別実習Ⅰ（2単位）、他8単位</p> <p><必修科目（14単位）> 保健学特論（2単位）、保健学研究方法（2単位）、特別研究（8単位）、他2単位</p> |
| がんに関する専門資格との連携 | 日本看護系大学協議会による高度実践看護師教育課程（がん看護専門看護師教育課程）として認定を受けている |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | <ul style="list-style-type: none"> ・がん看護専門看護師コースでは、がん診療連携拠点病院等のがん看護専門看護師や多職種（疼痛治療専門医、緩和医療専門薬剤師、理学療法士、作業療法士、栄養士、ケースワーカーなど）を活用した連携教育を行う ・遠隔テレビ授業システムを活用し、沖縄県立看護大学大学院、名桜大学大学院との単位互換制度による授業の相互受講を行い、専門看護師を目指す大学院生間の交流、各地域におけるがん医療や緩和ケアの現状・問題点、地域／多職種連携のあり方等に関するディスカッション、事例検討会等を行うことで、将来のがん看護専門看護師間のネットワークづくりを図る。 |
| 指導体制 | がん看護専門看護師コースは、日本看護系大学協議会による教育課程の認定を受けたコース責任者（照屋典子）が、県内のがん診療連携拠点病院（琉球大学病院、沖縄県立中部病院等）や地域のがん診療病院の専門看護師、認定看護師等、及び沖縄県立看護大学大学院、名桜大学大学院の看護教員との連携、協力により教育、指導にあたる。 |
| 修了者の進路・キャリアパス | コース修了生に対しては、がん看護専門看護師の資格取得に向けてのスーパーバイズを行い、専門資格取得後は、県内のがん診療連携拠点病院や地域がん診療病院、在宅ケアにおける役割が十分発揮できるよう、県内3看護系大学の専門看護師によるネットワークを活用した継続教育や研究支援を行う。 |

| | | | | | | | |
|--|---|------|------|------|------|-------|---|
| 受入開始時期 | 令和6年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定する。 | | | | | | |

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|--|--|------|------|------|------|-------|----|
| 大学名等 | 琉球大学大学院 保健学研究科 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 痛みの治療・ケアを担う緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブ） | | | | | | |
| 対象職種・分野 | 看護師（3年以上の看護実務経験うちがん看護経験2年以上を有する看護師） | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 半年間 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | 島嶼沖縄県は、特に離島地域においてがん医療に精通した医療人材が不足しており、がん治療、緩和ケアなどがん医療の均てん化が課題であることから、沖縄県内の緩和ケア推進を目指して、疼痛治療専門医や緩和医療専門薬剤師等の多職種と協働できる人材、ならびに将来的に緩和ケア認定看護師やがん看護専門看護師等、がん看護や緩和ケアのスペシャリストを目指す看護師 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | <ul style="list-style-type: none"> 保健学研究科が提供する授業科目（2科目）を履修し、半年後、本コースでの学びを具体的にどのように実践に還元したのか成果報告会でプレゼンテーション（最終試験）を行うことを修了要件とする 公開授業形式にて受講する | | | | | | |
| 履修科目等 | 緩和ケア特論（2単位）、緩和ケア特別演習Ⅰ（2単位） 成果報告会によるプレゼンテーション | | | | | | |
| がんに関する専門資格との連携 | 本コース修了後は、日本緩和医療学会主催のELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成プログラムの受講が可能となり、指導者養成プログラム受講によりELNEC-Jコアカリキュラム指導者として登録できる。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアを提供する看護師に必須とされる能力修得、知識・技術強化を目的とした米国エンド・オブ・ライフ看護教育協議会によるプログラム日本語版（ELNEC-J）の提供や事例検討、グループ討議、ロールプレイ、視聴覚教材の活用など多様な教育方法で受講生が主体的に学べるプログラムを展開する。 県内のがん診療連携拠点病院やがん診療病院の疼痛／緩和治療を専門とする医師や薬剤師による疼痛治療の実際や、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師の緩和ケアの取り組みに関する講義の受講や事例に関するディスカッションを行うことで、スペシャリストとの学際的な交流の場を提供する。 コースによる講義・演習は半年間で行い、その半年後に成果報告会（コース終了後の実践発表）を課し、受講生間でさらに有意義な情報共有の場を提供する。 | | | | | | |
| 指導体制 | ELNEC-Jコアカリキュラム指導者（照屋典子）が、がん診療連携拠点病院・がん診療病院等の医師、薬剤師、緩和ケア認定看護師、専門看護師等のスペシャリストや、沖縄県看護協会等と協力して指導にあたる。 | | | | | | |
| 修了者の進路・キャリアパス | コース修了生に対しては、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師等の教育課程進学に向けた教育支援、または所属施設におけるリーダー的役割が担えるよう継続教育支援や、がん看護、緩和ケアに関する研究支援を提供している。 | | | | | | |
| 受入開始時期 | 令和5年10月 | | | | | | |
| 受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small> | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度 | 計 |
| | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 30 |
| 受入目標人数設定の考え方・根拠 | 過去の受講希望者数から毎年度5人程度が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定する。 | | | | | | |

次世代の九州がんプロ養成プラン

■ 課題

- 九州は全国の離島・僻地の約半数を有し、がん医療に必要な人材が不足。
(例：がん薬物療法専門医の不足 右図参照)
- がん治療の長期化に伴い、患者の身体的・精神的・社会的負荷への対応が必要
- プレジジョン医療を推進し、自ら研究開発できる人材が必要

■ 事業概要

- 九州医療系11大学で拠点を形成。
- 「事業運営推進協議会」により、意思統一と円滑な運営を実施。
- 誰一人取り残さないがん対策を推進する教育コースを各大学に新たに開設
- プレジジョン医療、就労支援、遠隔地医療に特化した教育プログラム
- さまざまな職種に学びの機会を提供可能とする、各種研修モデルの策定
- 毎年の内部・外部評価、他拠点との合同研修による、事業のブラッシュアップ

■ 本プランが開設する36の新たな教育コース (インテンシブコース含む)

| 大学名 | 開設 コース数 | コース種別 (※) | | | コースにおいて 養成する主な職種 |
|--------|------------|-------------|------|------|---------------------|
| | | 顕在化 した課題 | がん予防 | 治療開発 | |
| 九州大学 | 8 | ● | ● | ● | 医師 薬剤師 医用物理士 検査技師 |
| 久留米大学 | 3 | ● | | | 医師 看護師 多職種 |
| 福岡大学 | 2 | ● | | | 医師 多職種 |
| 産業医科大学 | 4 | ● | | ● | 医師 |
| 大分大学 | 3 | ● | ● | ● | 医師 看護師 多職種 |
| 佐賀大学 | 1 | ● | | ● | 医師 |
| 長崎大学 | 3 | ● | ● | ● | 医師 看護師 |
| 熊本大学 | 2 | | | ● | 医師 薬剤師 |
| 宮崎大学 | 4 | ● | | | 医師 薬剤師 看護師 |
| 鹿児島大学 | 3 | ● | ● | ● | 医師 薬剤師 看護師 |
| 琉球大学 | 3 | | ● | ● | 医師 看護師 |

※ 1つのコースが複数の種別を兼ねる場合を含む。

■ プランイメージ図

国内関係機関

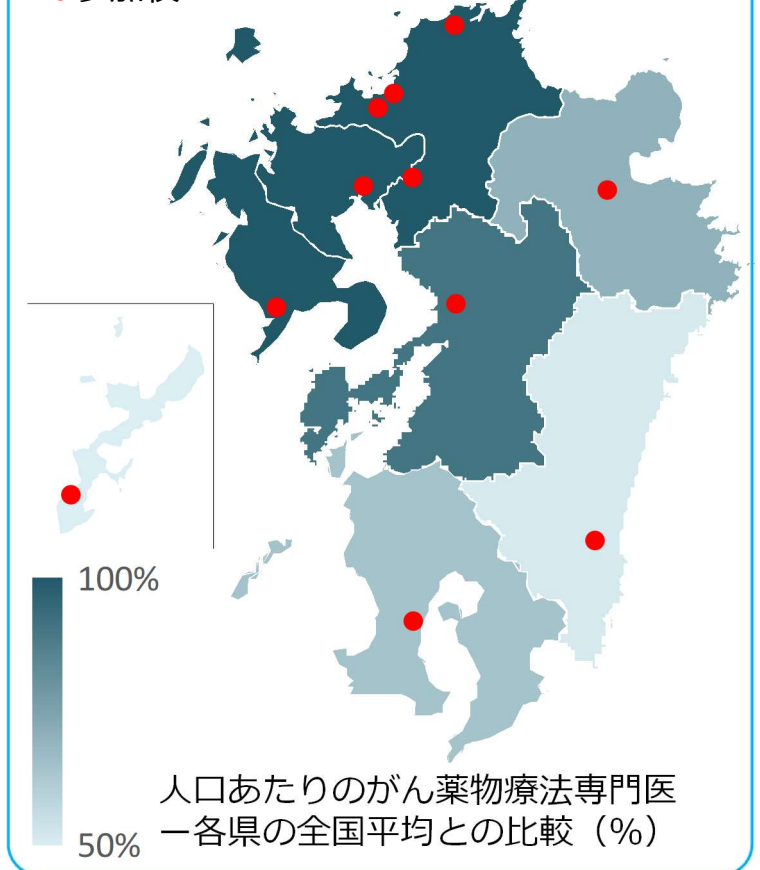
参画大学他部局
(例：両立支援科等)
地域医療機関・医師会
地方自治体
本事業採択他拠点 等

海外大学・医療機関等



連携

● 参加校



九州で人材を養成することにより、効率的に、九州のがん医療専門人材の偏在を解決する